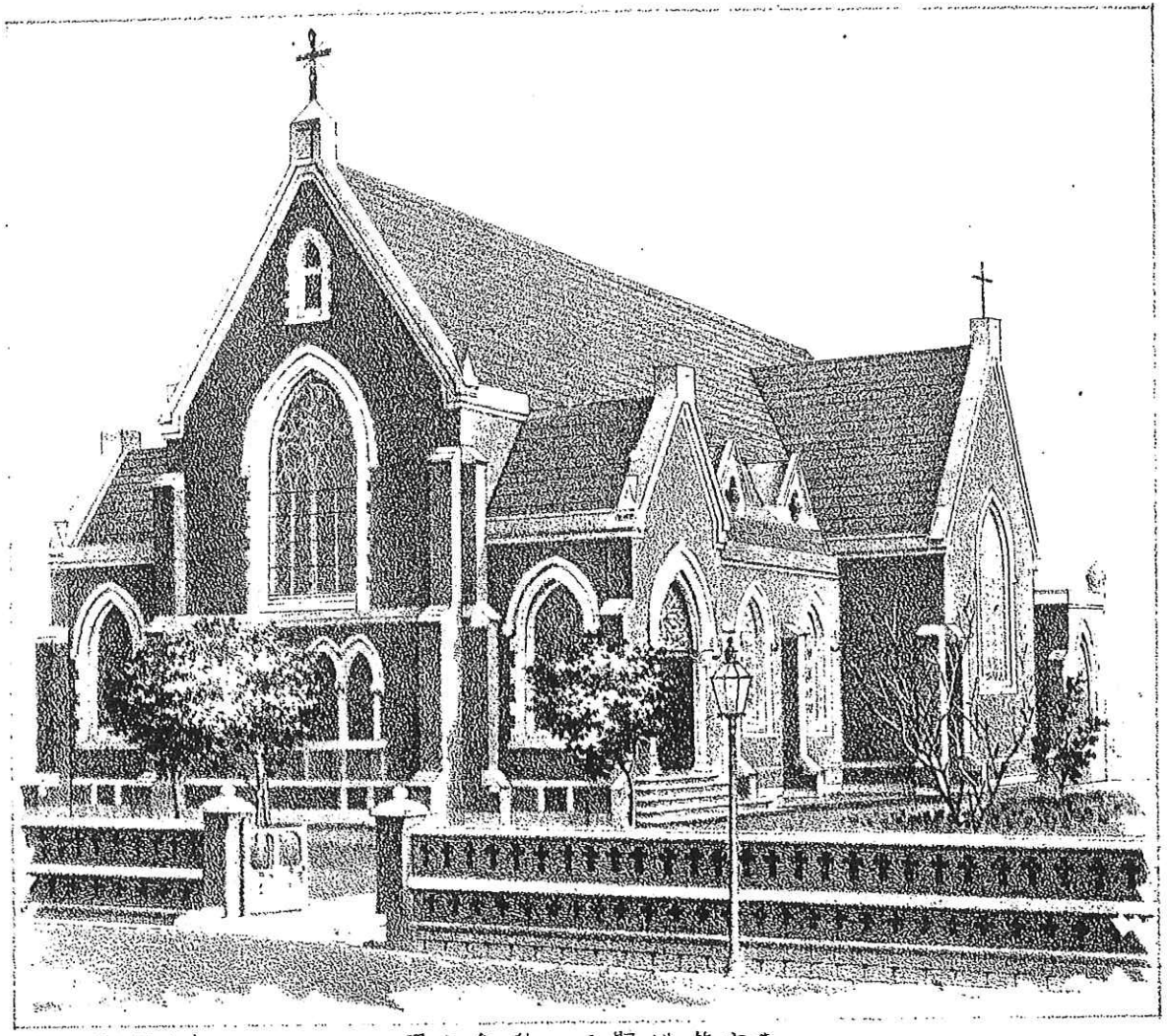
耶蘇降生一千八百九十三年

明治二十六年

聖公會略曆

正



東京築地聖三一教會之圖

大阪龍眠書店印

目錄

第一　東京築地聖三一教會堂之圖　一
第二　序　四
第三　凡例　五
第四　詩篇表　六
第五　年中聖書日課表　三十
第六　立教師節及大齋日課表　三十三
第七　日本聖公會一覽表　五十六
第八　各地方傳道祈禱表　五十六
第九　先輩紀念日表
第十　法憲法規　附錄
第十一　諸廣告　一

汝等使徒と豫言者の基の上に建らる耶蘇基督自ら其隅の首石となれり

主耶蘇基督は此世に臨降し完く萬民の拯救を成し遂げ給ひたり此時に當り主は十二の使徒を撰拔て常に己と共に居しめ其總ての所爲を實見し其訓諭を親しく聞かしめ給へり斯て主は昇天し給ふ時神の國に就て明瞭なる教訓を與へ特別なる權威を授け其教會を監督奬勵することを命じ給ひたりき是故に使徒等は主の聖訓を遵奉し絶えず祈禱て其導を乞ひ其力を賴むに依りて教會政治の爲に種々の規則を定むることを得たり思ふに此規則は世のあらん限り有効なるものなれば吾人は之を悟りて永久に持續するの義務ありとす然るに古より教理に加除を施し異端を發して別派を生ずるもの多し豈憂ふべきの至りならずや我聖公會信徒たるものは大に此に鑒み充分に其特權と責任の如何を反省せざるべからず

第一我等は眞理の證人なり我公會に於ては公禱日課表により年中聖書を讀み詩を謠へば聖書の眞味は明かに知悉するものなるべし然らば則ち此聖書を基として眞理を求めざるべからずこれを求むるに當りては昔人の遺言を拾ひ亦祖先の註釋をも棄ることなく悉くこれを聖書に照らして得る所の眞理を寶として貫び永く後代に傳ふべきなり

第二我等は敬虔の證人なり今日我公會は公禱の順序を定め古の聖徒の祈禱を用ひ使徒等の定則に從ひて聖餐禮を施せり是れ他なし吾人をして敬虔の道を學ばしむるの主意なり故に天災に近付んとする時は須らく注意して其願ふべきことを考へ且聖前に祈る時は姿勢をも能く整正せざるべからず

第三我等は神聖の證人なり我等は誠に眞理を追求め敬虔を重んずるものなれば神を畏れ神を愛し之を尊戴するの精神を養はざるべからず我等は基督の贖ひに依て罪を免され神と和ぎ聖靈の恩惠を蒙りて活されたれば同じ聖靈の導に從ひ心を潔くし行を正ふすることを勉め勵むべきなり

凡例

一　主日祝文ヲ用フルヿハ其前夕ヨリ始メテ次ノ主日ノ前夕ニ及ブベシ但降臨節第一主日祝文ハ降誕前日マデ他ノ主日祝文ト共ニ唱フベシ

二　他ノ聖日祝文ヲ用フルハ其前夕ヨリ始メテ當日ノ晩ニ及ブベシ但降誕日祝文ハ除夜マデ他ノ祝文ト共ニ唱フベシ

三　又受活禮日祝文ハ現異邦日マデ日々用フベシ

四　大齋始日ヨリ復活日ノ前日マデ四十日間ヲ以テ齋日トナスベシ（日曜日ヲ除ク）他ノ齋日ヲ示スハ單ニ齋ト記シ聖日ノ前日ハ前齋ト記セリ

五　立敎師節及ビ大齋日ノ別課ハ此表ノ附錄ニ在リ就テ見ルベシ

六　聖餐ノ日特別ノ感謝ヲ用フベキ聖日ノ上欄ニハ（特謝何日間）ト略記シ祈禱文參見ノ便トナス

七　聖アンデレー日ノ前日或ハ該週中他ノ一日ヲ以テ傳道祈禱日ニ充ツベシ

日本紀元節二月十二日及ビ天長節十一月三日ノ両日ヲ以テ國家平安ノ祈禱日トシ新嘗祭日十一月廿三日ヲ以テ收納（カリイレ）感謝日トナシ國風ニ伴フハ大ニ益アルヲ覺ユ

十六日	月		創	廿四〇一、廿八、	太 九〇十八、
十七日	火			廿四〇五二、	十〇一、廿三、
十八日	水			二五〇十九、	十〇二四、
十九日	木			二六〇十八、	十一〇
二十日	金	齋		二七〇三十、	十二〇一、二二、
廿一日	土			二九〇一、二十、	十二〇廿二
廿二日	日	現異邦后第三主日	賽	六二〇	或 十三〇一、廿三、賽 十四〇十二
廿三日	月		創	三二〇二二、	十三〇二四、五二、
廿四日	火			三五〇一、廿、	十三〇五三、十四〇十二、
廿五日	水	聖パウロ改心日	賽	四九〇一、一二、	加 一〇十一、
廿六日	木		創	三七〇十二、	太 十四〇十三、
廿七日	金	齋		四十〇	十五〇一、二十、
廿八日	土			四十一〇十七、五二、	十五〇廿一、
廿九日	日	大齋前第三主日		一〇一、二〇三、	默 二一〇一、八、
三十日	月			四三〇二五、四四〇十三、	太 十六〇二四、十七〇十三、
卅一日	火			四五〇一、廿四、	十七〇十四、

十六日	月		創	二四〇二九、五一、	徒 九〇二三、
十七日	火			廿五〇五、一八、	十〇一、廿三、
十八日	水			二六〇一、一七、	十〇二四、
十九日	木			二七〇一、二九、	十一〇
二十日	金	齋		二八〇	十二〇
廿一日	土			三一〇一、二四、	十三〇一、二五、
廿二日	日	現異邦后第三主日	賽	六五〇 六六〇	十三〇廿六、或 聖后 四〇
廿三日	月		創	三三〇	徒 十四〇
廿四日	火			三七〇一、十一、	十五〇一、二九、
廿五日	水	聖パウロ改心日	耶	一〇一、十、	二六〇一、二十、
廿六日	木		創	三九〇	十五〇三十、十六〇十五、
廿七日	金	齋		四一〇一、十六、	十六〇十六、
廿八日	土			四一〇五三、四二〇二四、	十七〇一、十五、
廿九日	日	大齋前第三主日		二〇四、或伯三八〇	默 廿一〇九、廿二〇五、
三十日	月		創	四四〇十四、	徒 十八〇一、二三、
卅一日	火			四五〇廿五、四六〇七、	十八〇廿四、十九〇廿、

二月

			朝日課 舊約	朝日課 新約	晚日課 舊約	晚日課 新約
一日	水	前齋	創四六〇二六、四七〇一二、	太十八〇一、二十、	創四七〇十三、	徒一九〇二一、
二日	木	耶蘇獻殿日	詩十三〇一、十六、二十〇八六〇八七〇	十八〇二一、十九〇二一、	詩基八四〇百十三〇百卅四〇二〇一、九、	廿〇一、十六、
三日	金	齋	創四八〇	十九〇三、二六、	創四九〇	廿〇十七、
四日	土		五十〇	十九〇廿七、廿〇十六、	出一〇	廿一〇一、十六、
五日	日	大齋前第二主日	三〇	或廿〇十七、六〇	創六〇或八〇	或弗廿一〇十七、三六、
六日	月		出四〇一、二三、	二一〇一、二二、	出四〇三七、五〇十四、	徒廿一〇三七、廿二〇二二、
七日	火		五〇十五、六〇十三、	廿一〇廿三、	六〇廿八、七〇十三、	廿二〇廿三、廿三〇十一
八日	水		七〇一四、	二二〇一、一四、	八〇一、一九、	廿三〇十二、
九日	木		八〇廿、九〇十二、	二三〇十五、四十、	九〇十三、	二四〇
十日	金	齋	十〇一、二十、	二二〇四一、二三〇十二、	十〇廿一、十一〇、	二五〇
十一日	土	(紀元節)	十二〇一、二十、	二三〇、十三、	十二〇二一、四二、	二六〇
十二日	日	大齋前第一主日	創九〇一、十九、	或二四〇一、廿八七〇	創十二〇十三〇	或弗二七〇一、十七、
十三日	月		出十四〇十、	二四〇二九、	出十五〇一、二二、	徒二七〇十八、
十四日	火		十五〇廿二、十六〇十、	二五〇一、三十、	十六〇十一、	二八〇一、十六、
十五日	水	大齋始日	賽五八〇一、十二、六〇三二〇三八〇	可二〇十三、廿二、	弇詩三〇百二〇百卅〇百四十三〇	來十二〇三、十七、

十六日	木		出十九〇	太二六〇一、三十、	出二十〇一、二二、	羅一〇
十七日	金		二一〇一、十七、	二六〇二一、五六、	二二〇廿一、二三〇九、	二〇一、十六、
十八日	土		二三〇十四、	二六〇五七、	二四〇	二〇十七、
十九日	日	大齋第一主日	創十九〇十二、廿九、	或二七〇一、廿六十〇	創廿二〇一、十九或廿三〇	或弗三〇四〇
二十日	月	該週間ハ	出二八〇二九、四一、	二七〇二七、五六、	出二九〇三五、三十〇十、	羅四〇
廿一日	火	第二立教	三一〇	廿七〇五七、	三二〇一、十四、	五〇
廿二日	水	師節也	三二〇十五、	二八〇	三三〇、一、十一、	六〇
廿三日	木		三三〇十二、三四〇九、	可一〇一、二十、	三四〇十、二六、	七〇
廿四日	金	聖マツテヤ日	母上二〇二七、三五、	一〇二一、	賽二二〇十五、	八〇一、十七、
廿五日	土		出三四〇二七、	二〇一、二二、	出三五〇二九、三六〇七、	八〇十八、
廿六日	日	大齋第二主日	創二七〇一、四十、	或路二〇廿三、三〇十二、十〇一、廿四、	創廿八〇三二〇	或弗九〇一、十八、五〇十五、六〇十、
廿七日	月		出四十〇十七、	可三〇十三、	利九〇廿二、十〇十一、	羅九〇十九、
廿八日	火		利十四〇一、廿二、	四〇一、三四、	十六〇一、廿二、	十〇

三月		朝日課 舊約	朝日課 新約	晚日課 舊約	晚日課 新約
一日 水		利 二五〇一、十七、	可 四〇三五、五〇二十、	利 二五〇十八、四三、	羅 十一〇一、二四、
二日 木		二六〇一、廿、	五〇廿一、	二六〇廿一、	十一〇廿五、
三日 金		民 六〇	六〇一、十三、	民 九〇十五、十〇、十、	十二〇
四日 土		十〇十一、	六〇十四、二九、	十一〇一、二三、	十三〇
五日 日	大齋第三主日	創 三七〇	或 六〇三十、九〇一、廿九、	創 三九〇四十〇	或 十四〇一、十五〇七、十四〇
六日 月		民 十三〇十七、	七〇一、廿三、	民 十四〇一、廿五、	十五〇八、
七日 火		十四〇、二六、	七〇二四、八〇九、	十六〇一、二二、	十六〇
八日 水		十六〇二三、	八〇十、九〇一、	十七〇	哥前一〇一、二五、
九日 木		二十〇一、十三、	九〇二、二九、	二十〇十四、	一〇二六、二〇、
十日 金		二一〇一、九、	九〇三十、	二一〇十、三一、	三〇
十一日 土		二二〇一、二一、	十〇一、三一、	二二〇二二、	四〇一、十七、
十二日 日	大齋第四主日	創 四二〇	或約 十〇三〇二、五〇廿四	創 四三〇四五〇	或腓 四〇十八、五〇一〇
十三日 月		民 二五〇	可 十一〇一、廿六、	民 二七〇十二、	哥前六〇
十四日 火		申 一〇一、十八、	十一〇二七、十二〇十二、	申 一〇十九、	七〇一、二四、
十五日 水		二〇一、二五、	十二〇十三、三四、	二〇二六、三〇十七、	七〇二五、

十六日 木		三〇十八、	十二〇三五、十三〇十三、	四〇一、二四、	八〇
十七日 金		四〇二五、四十、	十三〇十四、	五〇一、二一、	九〇
十八日 土		五〇二二、	十四〇一、二六、	六〇	十〇一、十一〇一、
十九日 日	大齋第五主日	出 三〇	或路 十四〇二七、五二、二一〇	或 五〇、六〇一、十三、	或腓 十一〇二、十六、三〇
二十日 月		申 八〇	可 十四〇五三、	申 十〇八	哥前十一〇十七、
廿一日 火		十一〇一、十七、	十五〇一、四一、	十一〇十八、	十二〇一、二七、
廿二日 水		十五〇一、十五、	十五〇四二、十六〇、	十七〇八、	十二〇二八、十三〇、
廿三日 木		十八〇九、	路 一〇一、二五、	二四〇五、	十四〇一、十九、
廿四日 金		二六〇	一〇二六、四五、	二七〇	十四〇二十、
廿五日 七	處女マリヤ蒙喜日	創 三〇一、十五、八九〇	一〇四六、	賽 五二〇七、十二 百卅一〇百卅二〇百卅八	十五〇一、三四、
廿六日 日	復活前主日	出 九〇	太 二六〇	出 十〇十一〇	路 十九〇廿八、或 廿〇九、二十、
廿七日 月	復活前月曜日	哀 一〇一、十四、	約 十四〇一、十四、	哀 二〇十三、	約 十四〇十五、
廿八日 火	仝上火曜日	三〇一、三三、	十五〇一、十三、	三〇三四、	十五〇十四、
廿九日 水	仝上水曜日	四〇一、廿、	十六〇一、十五、	但 九〇廿、	十六〇十六、
三十日 木	仝上木曜日	何 十三〇一、十四、	十七〇	何 十四〇	十三〇一、三五、
卅一日 金	受苦日	創 廿二〇一、十九、四十〇五四〇	十八〇	賽 五二〇十三、五三〇六九〇八八〇	彼前二〇

特謝八日間

四月	朝日課 舊約	朝日課 新約	晚日課 舊約	晚日課 新約
一日 土	復活前土曜日	亞詩四〇十六〇十七〇	九〇	路 二三〇五十、	何詩三一〇	五〇八、六〇三、	羅 六〇一、十三、
二日 日	復活日	出詩二〇五七〇百十一〇	出十二〇一、二八、	默 一〇十、十八、	出詩百十三〇百十四〇百十八〇	十二〇廿九或十四〇	約二十〇十一、十八、或默五〇
三日 月	復活后日曜日	出 十五〇一、廿一、	路 廿四〇一、十二、	哥 二〇十、	太 二八〇一、九、
四日 火	全上火曜日	王下十三〇十四、廿一、	約 廿一〇一、十四、	約 三七〇一、十四、	約 廿一〇十五、
五日 水		書二一〇四三、三〇十、	路 七〇二四、	書 二二〇十一、	哥后九〇
六日 木		二三〇	八〇一、二五、	二四〇	十〇
七日 金	齋	士 二〇	八〇二六、	士 四〇	十一〇一、二九、
八日 土		五〇	九〇一、二七、	六〇一、二三、	十一〇三十、十二〇十三、
九日 日	復活后第一主日	民 十六〇一、三五、	哥前十五〇一、廿八	民十六〇三六、十七〇一、十一、	約 廿〇二四、廿九、
十日 月		士八〇三二、九〇廿四、	路九〇五一、十〇十六、	士 十〇	加 一〇
十一日 火		十一〇一、廿八、	十〇十七、	十一〇廿九、	二〇
十二日 水		十三〇	十一〇一、廿八、	十四〇	三〇
十三日 木		十五〇	十一〇廿九、	十六〇	四〇一、二十、
十四日 金	齋	得 一〇	十二〇一、三四、	得 二〇	四〇廿一、五〇十二、
十五日 土		三〇	十二〇三五、	四〇	五〇十三、

十六日 日	復活后第二主日	民 廿〇一、十三、	十三〇一、十七、民或廿一〇十四、廿一〇九、	或西一〇 六〇
十七日 月		母上二〇廿一、	路 十三〇十八、	母上三〇	弗 一〇
十八日 火		四〇	十四〇一、廿四、	五〇	二〇
十九日 水		六〇	十四〇廿五、十五〇十、	七〇	三〇
二十日 木		八〇	十五〇十一、	九〇	四〇一、二四、
廿一日 金	齋	十〇	十六〇	十一〇	四〇二五、五〇廿一、
廿二日 土		十二〇	十七〇一、十九、	十三〇	五〇二二、六〇九、
廿三日 日	復活后第三主日	民 廿二〇	十七〇二十、或約六〇廿二、五八、	民廿三〇廿四〇	或徒十五〇一、三一、六〇十、
廿四日 月		母上十五〇	路 十八〇一、三十、	母上十六〇	腓 一〇
廿五日 火	聖マコ日	饗 六二〇六、	十八〇廿一、十九〇十、	結 一〇一、十四、	二〇
廿六日 水		母上十七〇一、三十、	十九〇十一、二七、	母上十七〇三一、五四、	三〇
廿七日 木		十七〇五五、十八〇十六、	十九〇二八、	十九〇	四〇
廿八日 金	齋	二十〇一、十七、	二十〇一、二六、	二十〇十八、	西 一〇一、二十
廿九日 土		二一〇	二十〇二七、廿一〇四、	二二〇	一〇二一、二〇七、
三十日 日	復活后第四主日	申 四〇一、廿二、	或徒五〇 廿一〇五、	申四〇廿三、四十、或五〇	二〇八、或撒前三〇

五月		朝課 舊約	朝課 新約	晚課 舊約	晚課 新約
一日 月	聖ヒリポ及聖ヤコブ日	賽 六一〇	約 一〇四三	路 二二〇一、三十、	西 三〇一、十七、三〇一八、四〇六、
二日 火		母上二六〇		母上二八〇三、	
三日 水		三一〇	三〇三一、五三、	全下一〇	四〇七
四日 木		母下三〇十七、	二二〇五四、	四〇	撒前一〇
五日 金	齋	六〇	二三〇一、二五、	七〇一、十七、	二〇
六日 土		七〇十八、	三〇二六、四九、	九〇	三〇
七日 日	復活后第五主日	申 六〇	二三〇五十、廿四〇十二 或徒六〇	申 九〇 十〇 或	四〇
八日 月	齋 生植禱日	母下十三〇三八、十四〇廿五、	路 廿四〇十三、	母下十五〇一、十五、	五〇
九日 火	齋 全上	十五〇十六、	約 一〇一、二八、	十六〇一、十四、	撒後一〇
十日 水	前齋 全上	十六〇十五、二七〇廿三、	一〇廿九、	十七〇廿四、十八〇十三、	二〇
十一日 木	昇天日	但 七〇九、十四、詩八〇十五〇十一〇	路 廿四〇四四、	王下二〇一、十五、詩廿四〇四七〇百八〇	來 四〇
十二日 金	齋	母下十九〇二四、	約 三〇一、二一、	母下二一〇一、十四、	提前一〇一、一七、
十三日 土		二三〇一、二三、	三〇二二、	二四〇	一〇十八、二〇十五、
十四日 日	昇天后主日	申 三十〇	或 四〇一、三十、十七〇	申 三四〇 或書一〇	或來 三〇 四〇十四、五〇十、
十五日 月		代上廿九〇十、	四〇三一、	王上三〇	提前四〇

特謝八日間

十六日 火		王上四〇二十、	五〇一、二三、	五〇	五〇
十七日 水		六〇一、十四、	五〇廿四、	八〇一、廿一、	六〇
十八日 木		八〇廿二、五三、	六〇一、廿一、	八〇五四、九〇九、	全後一〇
十九日 金	齋	十〇	六〇廿二、四十、	十一〇一、廿五、	二〇
二十日 土	前齋	十一〇二六、	六〇四十一、	十二〇一、廿四、	三〇
廿一日 日	聖靈降臨日	申 十六〇一、十七、四八〇六八〇、詩	羅 八〇一、十七、	賽十一〇或結三六〇廿五、詩百四〇百四五〇	加 五〇十六、或徒十八〇廿四、十九〇廿
廿二日 月	全后月曜日	創 十一〇一、九、	哥前十二〇一、十三、	民十一〇十六、三十、	哥前十二〇二七、十三〇十三、
廿三日 火	全 火曜日	耳 三〇廿一、	撒前五〇十二、廿三、	來 四〇一、七、	約壹四〇一、十三、
廿四日 水	齋 該週間八第	王上十八〇一、十六、	約 八〇三一、	王上十八〇十七、	多 三〇
廿五日 木	三立教師節	十九〇	九〇一、三八、	二二〇	門 全一
廿六日 金	齋 ナリ	廿二〇一、四十、	九〇三九、十〇廿一、	王下一〇	來 一〇
廿七日 土	齋	王下二〇	十〇二二、	四〇八、	二〇一、三〇六、
廿八日 日	三位一体主日	賽 六〇一、十、廿九〇三三〇詩	默 一〇一、八、	創十八〇或一〇一、二〇三、詩九三〇九七〇百五十〇	弗 四〇一、十六、或 太三〇
廿九日 月		王下六〇廿四、	約十一〇十七、四六、	王下七〇	來 四〇十四、五〇
三十日 火		八〇一、十五、	十一〇四七、十二〇十九、	九〇	六〇
卅一日 水		十〇一、十七、	十二〇廿、	十〇十八、	七〇

特謝七日間

凡例第四

六月

		朝日課 舊約	朝日課 新約	晚日課 舊約	晚日課 新約
一日	木	王下十三〇	約十三〇一、二十、	王下十七〇一、二三、	來八〇
二日	金 齋	十七〇二四、	十三〇二一、	代下十二〇	九〇
三日	土	代下十三〇	十四〇	十四〇	十〇一、十八、
四日	日	三位一体后第一主日 書三〇七、四〇十四、	或徒十五〇八〇二、	書五〇十三、六〇廿、或廿四〇	十〇十九、或提前六〇
五日	月	代下十九〇	約十六〇一、十五、	代下廿〇一、三十、	來十一〇一、十六、
六日	火	廿〇三一、廿一〇	十六〇十六、	廿二〇	十一〇十七、
七日	水	廿三〇	十七〇	廿四〇	十二〇
八日	木	二五〇	十八〇一、二七、	二六〇二七〇	十三〇
九日	金 齋	二八〇	十八〇二八、	王下十八〇一、八、	雅一〇
十日	土	二九〇三、廿、	十九〇一、二四、	代下三十〇一、三一〇	二〇
十一日	日	三位一体后第二主日 聖ペトロ日 士四〇三三〇一、十一、	徒四〇三一九〇一、三一 或	士五〇或六〇十一或翁一〇	徒十四〇八、或提後二〇
十二日	月	王下十八〇十三、	約十九〇廿五、	王下十九〇一、十九、	雅三〇
十三日	火	十九〇二十、	二十〇一、十八、	二十〇	四〇
十四日	水	賽三八〇九、二十、	二十〇十九、	代下三三〇	五〇
十五日	木	王下二二〇	二一〇	王下二三〇一、二十、	彼前一〇一、二一、

十六日	金 齋	二三〇二一、二四〇七、	徒一〇	二四〇八、二五〇七、	一〇二二、二〇十、
十七日	土	二五〇八、	二〇一、二一、	喇一〇及三〇	二〇十一、三〇七、
十八日	日	三位一体后第三主日 母上二〇一、廿六、	或二〇廿二十〇	母上三〇或四〇一、十八、	三〇八、四〇六、或提后三〇一、四〇八、
十九日	月	喇七〇	徒三〇	喇八〇十五	彼前四〇七、
二十日	火	九〇	四〇一、三一、	十〇一、十九、	五〇
廿一日	水	尼一〇	四〇三二、五〇十六、	尼二〇	仝后一〇
廿二日	木	四〇	五〇十七、	五〇	二〇
廿三日	金 前齋	六〇一、七〇四、	六〇	七〇七三、八〇	三〇
廿四日	土 聖バプテスマノヨハネ日	馬三〇一、六、	太三〇	馬四〇	太十四〇一、十二、
廿五日	日	三位一体后第四主日 母上十二〇	徒七〇一、三四、或十一〇	母上十三〇或得一〇	約壹一〇或多二〇一、三〇九、
廿六日	月	帖一〇	七〇三五、八〇四、	帖二〇十五、三〇	約壹二〇一、十四、
廿七日	火	四〇	八〇五、二五、	五〇	二〇十五、
廿八日	水 前齋	六〇	八〇二六、	七〇	三〇一、十五、
廿九日	木 聖ペテロ日	結三〇四、十四、	約二〇十五、二三、	亞三〇	徒四〇八、二二、
三十日	金 齋	伯一〇	徒九〇一、二二、	伯二〇	約壹三〇十六、四〇六、

七月

		朝課		晚課	
		舊約	新約	舊約	新約
一日 土		伯 三〇	徒 九〇二三、	伯 四〇	約壹四〇七、
二日 日	三位一体后 第五主日	母上十五〇一、廿三、	或 十〇一、廿三、十四〇	母上十六〇十七〇	或來十〇 五〇
三日 月		伯 七〇	十〇廿四、	伯 九〇	約貳
四日 火		十〇	十一〇	十一〇	約參
五日 水		十二〇	十二〇	十三〇	猶 全
六日 木		十四〇	十三〇一、二五、	十六〇	太 一〇十八、
七日 金	齋	十七〇	十三〇二六、	十九〇	二〇
八日 土		二一〇	十四〇	三〇十二、二八、	三〇
九日 日	三位一体后 第六主日	母下一〇	十五〇一、廿九、	母下十二〇一、廿三、或 十八〇	四〇一、廿二、或來十一〇
十日 月		伯 廿五〇廿六〇	十五〇三十、十六〇十五、	伯 廿七〇	太 四〇廿三、五〇十二、
十一日 火		二八〇	十六〇十六、	二九〇一、三十〇一、	五〇十三、三二、
十二日 水		三十〇十二、二六、	十七〇一、十五、	三十一〇十三、	五〇三三、
十三日 木		三二〇	十七〇十六、	三八〇一、三八、	六〇一、十八、
十四日 金	齋	三八〇三九、三九〇	十八〇一、二三、	四十〇	六〇十九、七〇六、
十五日 土		四一〇	十八〇二四、十九〇二十、	四二〇	七〇七、

十六日 日	三位一体后 第七主日	代上廿一〇	或 十九〇廿一、十七〇	代上廿二〇 或 廿八〇一、廿、	或來十二〇 八〇一、十七、
十七日 月		箴 二〇	廿〇一、十六、	箴 三〇一、廿六	太 八〇十八
十八日 火		三〇二七、四〇十九、	二十〇十七、	四〇二十、五〇十四、	九〇一、十七、
十九日 水		五〇十五、	廿一〇、一、十六、	六〇一、十九、	九〇十八、
二十日 木		七〇	廿一〇十七、三六、	八〇	十〇一、二三、
廿一日 金	齋	九〇	二一〇三七、二二〇二二、	十〇十六、	十〇二四、
廿二日 土		十一〇一、十四、	二二〇二三、二三〇十一、	十一〇十五、	十一〇
廿三日 日	三位一体后 第八主日	代上廿九〇九、廿八	或 廿三〇十二、廿〇七、	代下一〇 或王上三〇	或來十三〇 十二〇一、廿一、
廿四日 月	前齋	箴 十四〇九、廿七、	廿四〇	箴 十四〇廿八、十五〇十七、	太 十二〇二七、
廿五日 火	聖ヤコブ日	王下一〇一、十五、	路 九〇五一、五六、	耶 二六〇八、十五、	十三〇一、二三、
廿六日 水		箴 十五〇十八、	徒 二五〇	箴 十六〇一、十九、	十三〇廿四、五二、
廿七日 木		十六〇三一、十七〇十七、	二六〇	十八〇十、	十三〇五十三、十四〇十二、
廿八日 金	齋	十九〇十三、	二七〇	二十〇一、二二、	十四〇十三、
廿九日 土		二一〇一、十六、	二八〇一、十六、	二二〇一、十六、	十五〇一、二十、
三十日 日	三位一体后 第九主日	王上十〇一、廿四、	或 二八〇十七、廿四〇	王上十一〇、十四、或 十一〇廿六	十五〇廿一 或雅一〇
廿一日 月		箴 廿五〇	羅 一〇	箴 二六〇一、廿、	太 十六〇一、二三、

九月

日	曜	朝課 舊約	朝課 新約	晚課 舊約	晚課 新約
一日	金	齋	結 十三〇十七、	哥前十一〇十七、	結 十四〇一、十一、	可 五〇二一、
二日	土		十四〇十二、	十二〇一、二七、	十六〇四四、	六〇一、十三、
三日	三位一体后第十四主日		王下九〇	或太廿五〇 十二〇廿八、十三〇	王下十〇一、三一、或十三〇	六〇十四、廿九、或彼前一〇
四日	月		結 廿〇一、十七、	哥前十四〇一、十九、	結 廿〇十八、三二、	可 六〇三十
五日	火		結 二十〇三三、四三、	十四、〇二十、	二二〇二三、	七〇一、二三、
六日	水		二四〇十五、	十五〇一、三四、	二六〇	七〇二四、八〇九、
七日	木		二七〇一、二五、	十五〇三五、	二七〇二六、	八〇十、九〇一、
八日	金	齋	二八〇一、十九、	十六〇	三一〇	九〇二、二九、
九日	土		三二〇一、十六、	哥後一〇一、二二、	三三〇一、二十、	九〇三十、
十日	三位一体后第十五主日		王下十八〇	或可四〇 一〇廿三、二〇十三、	王下十九〇 或廿三〇 一、三十、	或彼前二〇 十〇一、三十一、
十一日	月		結 三十四〇十七、	哥后二〇十四、三〇	結三六〇十六、三二、	可 十〇三二、
十二日	火		三七〇一、十四、	四〇	三七〇十五、	十一〇一、二六、
十三日	水		四七〇一、十二、	五〇	但 一〇	十一〇二七、十二〇十二、
十四日	木		但 二〇一、二三、	六〇一、七〇一、	二〇二四、	十二〇十三、三四、
十五日	金	齋	三〇、	七〇二、	四〇一、十八、	十二〇三五、十三〇十三、

十六日	土		四〇十九、	八〇	五〇一、十六、	十三〇十四、
十七日	三位一体后第十六主日		代下三六〇	或可 九〇 十三〇	或尼 一〇一、二〇八、八〇	或彼前 十四〇一、廿六、三〇
十八日	月	該週間ハ第四立教師節	但 七、一、十四、	哥后十〇	但 七〇十五	可 十四〇廿七、五二、
十九日	火	ナリ	九〇一、十九、	十一〇一、二九、	九〇二十、	十四〇五三、
二十日	水	前齋	十〇一、十九	十一〇、三十、十二〇十三	十二〇	十五〇一、四一
廿一日	木	聖マタイ日	王上十九〇十五、	哥後十二〇十四、十三〇	代上二九〇一、十九、	十五〇四二、十六〇
廿二日	金	齋	何 二〇十四、	加 一〇	何 四〇一、十二、	路 一〇一、二五、
廿三日	土	齋	五〇八、六〇六、	二〇	七〇八、	一〇二六、五六、
廿四日	三位一体后第十七主日		那 五〇	或路 三〇十三〇	那 二二〇 或 三五〇	或彼前 一〇五七、四〇
廿五日	月		何 十〇	加 四〇一、廿、	何 十一〇一、十二〇六、	路 二〇一、廿、
廿六日	火		十三〇一、十四、	四〇二一、五〇十二、	十四〇	二〇二一、
廿七日	水		耳 一〇	五〇十三、	耳 二〇一、十四、	三〇一、二二、
廿八日	木		二〇十五、二七、	六〇	二〇二八、三〇八、	四〇一、十五、
廿九日	金	聖ミカエル及諸天使日	創 三二〇、九一〇百三〇 詩	徒 十二〇五、十七、	但 十〇四、三四〇百四八〇 詩	默 十四〇十四、
三十日	土		耳 三〇九、	弗 一〇	麼 一〇一、二〇三、	路 四〇十六、

十月 朝日課 晩日課

		朝 舊約	朝 新約	晩 舊約	晩 新約
一日	三位一体后第十八主日	那 三六〇	弗 二〇 或路十五〇	結 二〇 十三〇一、十六、	路 五〇一、十六、或彼前五〇
二日 月		麼 五〇一、十七、	弗 三〇	麼 五〇十八、六〇八、	路 五〇十七、
三日 火		七〇	四〇一、二四、	八〇	六〇一、十九、
四日 水		九〇	四〇二五、五〇二、	阿	六〇二十、
五日 木		拿 一〇	弗 五〇二二、六〇九、	拿 二〇	七〇一、二三、
六日 金 齋		三〇	六〇十、	四〇	七〇二四、
七日 土		米 一〇一、九、	腓 一〇	米 二〇	八〇一、二五、
八日	三位一体后第十九主日	結 十四〇	二〇 或路十九〇一、廿七、	結 十八〇 或 廿四〇十五、	八〇廿六、或彼后一〇
九日 月		米 五〇	腓 三〇	米 六〇	路 九〇一、廿七、
十日 火		七〇	四〇	翁 一〇	九〇二八、五十、
十一日 水		翁 二〇	西 一〇一、二十、	三〇	九〇五一、十〇十六、
十二日 木		哈 一〇	一〇二一、二〇七、	哈 二〇	十〇十七、
十三日 金 齋		三〇	二〇八、	番 一〇一、十三、	十一〇一、二八、
十四日 土		番 一〇十四、二〇三、	三〇一、十七、	二〇四、	十一〇二九、
十五日	三位一体后第廿主日	結 三四〇	三〇十八、四〇十八、廿二、	結 三七〇 或但一〇	或彼后一〇一、三四、

十六日 月		基 二〇一、九、	撒前一〇	基 二〇十、	路 十二〇三五、
十七日 火		亞 一〇一、十七、	二〇	亞 一〇、十八、二〇十三、	十三〇一、十七、
十八日 水	聖ルカ日	賽 五五〇	三〇	賽 三八〇	徒 十三〇十八、或 一〇一、十四、
十九日 木		亞 三〇	四〇	亞 四〇	路 十四〇一、二四、
二十日 金 齋		五〇	五〇	六〇	十四〇二五、十五〇十、
廿一日 土		七〇	撒後一〇	八〇一、十三、	十五〇十一、
廿二日	三位一体后第廿一主日	但 三〇	二〇 或約七〇	但 四〇 或 五〇	十六〇 或彼后三〇
廿三日 月		亞 十〇	撒后三〇	亞 十一〇	路 十七〇一、十九、
廿四日 火		十二〇	提前一〇一、十七、	十三〇	十七〇二十、
廿五日 水		十四〇	一〇十八、二〇	馬 一〇	十八〇一、三十、
廿六日 木		馬 二〇	三〇	三〇一、十二、	十八〇三一、十九〇十、
廿七日 金 齋		三〇十三、四〇六、	四〇	創 一〇一、二〇三、	十九〇十二、二七、
廿八日 土	聖シモン及聖ユダ日	賽 二八〇九、十六、	五〇	那 三〇十二、十八、	十九〇二八、
廿九日	三位一体后第廿二主日	但 六〇	或約六〇八〇一、四七、	但 七〇九、或 十二〇	或約壹二〇一、廿六、
三十日 月		創 四〇	提后一〇	創 六〇	路 廿〇廿七、廿一〇四、
廿一日 火	前齋	七〇	二〇	八〇	二一〇五、

凡例七

十一月

日	曜	朝日課 舊約	朝日課 新約	晚日課 舊約	晚日課 新約
一日	水	諸聖徒日 但詩十二〇一〇十五〇百四六〇	來十一〇三三、十二〇六、	馬三〇十六、四〇三、詩百十二〇百廿一〇百四九〇	默十九〇一、十六、
二日	木	創九〇	提後三〇	創十一〇一、九、	路二二〇一、三十、
三日	金	齋（天長節） 十一〇二七、十二〇	四〇	十三〇	二二〇三一、五三、
四日	土	十四〇	多一〇	十五〇	二二〇五四、
五日	日	三位一体后第廿三主日 何十四〇	或約二〇九〇	耳二〇二一三〇九、	或約一壹二〇二三〇一、廿五、
六日	月	創十八〇一、十六、	多三〇	創十八〇十七、	路廿三〇廿六、四九、
七日	火	十九〇十二、二九、	門	二十〇	路三三〇五十、二四〇十二、
八日	水	二一〇	來一〇	廿二〇一、十九、	二四〇十三、
九日	木	二三〇	二〇一、三〇六、	二四〇一、二八、	約一〇一、二八、
十日	金	齋 二四〇二九、五一、	三〇七、四〇十三、	二四〇五二、	一〇二九、
十一日	土	二五〇二七、二六〇六、	四〇十四、五〇十四、	二六〇十二、	二〇
十二日	日	三位一体后第廿四主日 麼三〇	或約六〇十〇一、三十、	麼五〇或九〇	或約三〇一、廿一、壹三〇
十三日	月	創廿七〇四六、廿八〇	來七〇	創廿九〇一、廿、	約三〇廿二
十四日	火	三一〇一、二四、	八〇	三二〇一、二一、	四〇一、三十、
十五日	水	三二〇二二、	九〇	三三〇	四〇三一、

凡例七

現今年用ヒサレル文祝用フ異節

凡例六 第三廿一五日主祝文后

日	曜																														
十六日	木	三五〇一、二十、	十〇一、十八、	三七〇一、十一、	五〇一、二三、																										
十七日	金	齋 三七〇十二、	十〇十九、	三九〇	五〇二四、																										
十八日	土	四十〇	十一〇一、十六、	饗一〇一、二十、	六〇一、二一、																										
十九日	日	三位一体后第廿五主日 米四〇一、五〇七、	或路十一〇、十七、七〇一、十八、	米六〇或七〇	或加二〇六〇廿二、四十、																										
二十日	月	饗三〇一、十五、	來十二〇、	饗四〇二、	約六〇四一、																										
廿一日	火	五〇一、十七、	十三〇	五〇十八、	七〇一、二四、																										
廿二日	水	六〇	雅一〇	七〇一、十六、	七〇二五、																										
廿三日	木	（新嘗祭） 八〇五、十七、	二〇	八〇十八、九〇七、	八〇一、三十、																										
廿四日	金	齋 九〇八、十〇四、	三〇	十〇五、十九、	八〇三一、																										
廿五日	土	十〇二十、	四〇	十一〇一、九、	九〇一、三八、																										
廿六日	日	三位一体后第廿六主日 傳十一〇十二〇	或約五〇十六〇	基二〇一、九、或馬三〇四〇	或猶全九〇三九、十〇廿一、																										
廿七日	月	饗十三〇	彼前一〇一、廿一、	饗十四〇一、廿三、	約十〇廿二、																										
廿八日	火	十七〇	一〇二二、十、二〇	饗十八〇	十一〇一、十六、																										
廿九日	水	前齋 十九〇一、十五、	二〇十一、三〇七、	十九〇十六、	十一〇十七、四六、																										
三十日	木	聖アンデレ日 饗五四〇	約一〇三五、四二、	六五〇一、十六、	約十二〇廿、四一、																										

第凡例一

十二月

日	曜	朝課 舊約	朝課 新約	晚課 舊約	晚課 新約
一日	金	齋	賚 二一〇一、十二、	賚 二二〇一、十四、	約十一〇四七、十二〇十九、
二日	土		二二〇十五、	二三〇	十二〇二十、
三日	降臨第一主日	賚 詩 一〇八〇五十〇	四〇七、	賚 詩 二〇九六〇九七〇、	或默一〇 十三〇一、廿、
四日	月	賚 廿六〇一、十九、	或路一〇一、廿五、五〇	賚 廿六〇廿、廿七〇	約 十三〇廿一、
五日	火		二八〇一、十三、	二八〇十四、	十四〇
六日	水		二九〇一、八、	二九〇九、	十五〇
七日	木		三十〇一、十七、	三十〇十八、	約 十六〇一、十五、
八日	金	齋	三一〇	三二〇	十六〇十六、
九日	土		三三〇	三四〇	十七〇
十日	降臨第二主日	賚 五〇	或路一〇廿六、五六、三〇一、十五、	或 十一〇一、十、廿四〇	或默二〇 十八〇一、二七、
十一日	月		四十〇十二、	四一〇一、十六、	約 十八〇廿八、
十二日	火		四一〇、十七、	四二〇一、十七、	十九〇一、二四、
十三日	水		四三〇八十、四三〇七、	四三〇八、	十九〇二五、
十四日	木		四四〇一、二十、	四四二一、四五〇七、	約 二十〇一、十八、
十五日	金	齋	四五〇八、	四六〇	二十〇十九、

第凡例四

日	曜				
十六日	土		四七〇	四八〇	二一〇
十七日	降臨第三主日		廿五〇	默 或路一〇一〇五七、	或 廿六〇廿八〇五、十八、 默 二〇一、十七、或 三〇
十八日	月	該週間ハ第一立教師節	五十〇	默二〇十八、三〇六、	五一〇一、八、 三〇七、
十九日	火	也	五一〇九、	四〇	五二〇一、十二、 五〇
二十日	水	前齋	五三〇十三、五三〇	六〇	五四〇 七〇
廿一日	木	聖トマス日	伯 四二〇一、六、	約 廿〇十九、二三、	三五〇 約 十四〇一、七、
廿二日	金	齋	賚 五五〇	默 八〇	五六〇 默 十〇
廿三日	土	前齋	五七〇	十一〇	五八〇 十二〇
廿四日	降臨第四主日		三十〇一、廿六、	或路三〇一、十四〇廿二、	或 三二〇三三〇二、廿二、 十五〇廿二〇
廿五日	月	降誕日	九〇一、七、詩十九〇四五〇八五〇	路 二〇一、十四、	詩八九〇百十〇百三二、 七〇十、十六、 多 三〇四、八、
廿六日	火	聖ステパノ日	創 四〇一、十、	徒 六〇	代下二四〇十五、三、 徒 八〇一、八、
廿七日	水	聖ヨハネ子日	出 三三〇九	約 十三〇二三、三五、	賚 六〇 默 一〇
廿八日	木	嬰孩被殺日	耶 三一〇一、十七、	默 十六〇 或太十八〇一、十四、	四九〇一、十二、 或可十〇十三、二七、 十八〇
廿九日	金	齋	賚 六一〇	默 十九〇一、十、	六二〇 默 十九〇十一、
三十日	土		六三〇	二十〇	二一〇一、十四、
卅一日	降誕后主日		三五〇	或路二〇十五、廿二〇廿五、	或 三八〇 六四〇一、六五〇七、 四十〇 或來二〇 廿二〇六、

第凡例二特祈日間

立教師節及大齋日課表

		朝禱 舊約	朝禱 新約	晚禱 舊約	晚禱 新約
第一立教師節	水曜日	耶 二三〇一、一五、	約 一〇一、二八、	耶 二三〇十六、	弗 四〇一、十六、
	金曜日	仝 二六〇一、一九、	仝 五〇三三、	馬 二〇	撒前五〇
	土曜日	馬 三〇一、十二、	路 十二〇三五、四八、	仝 三〇十三、四〇	提后一〇
第二立教師節	水曜日	結 二〇一、三〇九、	太 十三〇四四、	結 三〇十、	仝前三〇
	金曜日	仝 三三〇一、廿、	仝 十六〇一、十二、	仝 三四〇一、十六、	仝 五〇
	土曜日	仝 三四〇十七、	仝 十七〇一四、	仝 三七〇一、十四、	多 一〇
第三立教師節	水曜日	賽 六〇一、八、	路 六〇十二、廿三、	耶 三一〇二七、	晉前一〇十八、
	金曜日	仝 六一〇	仝 十〇一、二四、	仝 四二〇一、十二、	仝 二〇
	土曜日	結 十三〇一、十六、	仝 十二〇一、十三、	結 十四〇一、十一、	仝 九〇七、
第四立教師節	水曜日	申 十八〇十五、	徒 一〇一、九、	王上十三〇一、廿六、	晉后四〇
	金曜日	王下二〇一、廿二、	仝 四〇一、十二、	耶 六〇八、十九、	仝 五〇
	土曜日	何 四〇一、九、	仝 四〇十三、廿三、	米 三〇五、	來 十三〇七、廿一、
大齋節第二日		賽 五九〇一、十六、	可 十一〇十二、	那 三〇十二、四〇二、	羅 一〇

大齋節第三日	米 七〇	太 十二〇一、廿一、	番 一〇	羅 三〇	
第四日	麼 三〇	仝 十二〇廿二、	麼 五〇	仝 四〇	
第五日	亞 一〇	仝 十三〇一、廿三、	亞 三〇	提前一〇	
第六日	結 八〇	仝 十三〇廿四、四三、	結 九〇	仝 二〇	
第七日	土 二〇三〇九、	仝 十三〇四四、	仝 三〇十、	仝 三〇	
第八日	仝 二十〇一、廿六、	仝 十四〇廿二、	仝 廿〇廿七、	仝 四〇	
第九日	仝 三三〇一、廿、	仝 十六〇一、十二、	仝 三四〇一、十六、	仝 五〇	
第十日	仝 三四〇十七、	仝 十七〇十四、	仝 三七〇十四、	多 一〇	
第十一日	伯 一〇	仝 十九〇一、十五、	創 七〇	羅 五〇	
第十二日	仝 二〇	仝 十九〇十六、	仝 八〇	仝 八〇一廿一、	
第十三日	仝 三〇	仝 廿一〇二八、	仝 十三〇	仝 八〇廿二、	
第十四日	仝 九〇	仝 廿四〇一、廿八、	仝 十八〇十六、	仝 九〇一、十七、	
第十五日	仝 十四〇	仝 廿四〇廿九、	仝 十九〇十二、廿九、	仝 九〇十八、	
第十六日	仝 十九〇	可 一〇廿一、	仝 廿一〇九、廿一、	仝 十五〇一、廿一、	
第十七日	仝 廿七〇	仝 二〇一、十七、	出 十七〇	晉前四〇	
第十八日	仝 廿八〇	仝 五〇一、廿、	利 十九〇一、十八、	仝 五〇	

第十九日	仝	廿九〇	仝	五〇廿一、	民	十三〇十七、
第二十日	仝	三十〇	仝	六〇四五、	仝	十四〇一、廿五、
第廿一日	仝	三一〇四、	仝	七〇十四、三十、	仝	十五〇十七、
第廿二日	仝	三二〇	仝	八〇廿二、	書	七〇
第廿三日	仝	三八〇一、十八、	仝	九〇三三、	母上三〇	
第廿四日	仝	三八〇一九、	仝	十〇一、十六、	仝	四〇
第廿五日	仝	三九〇	仝	十〇十七、三四、	仝	十六〇
第廿六日	仝	四十〇	仝	十〇三五、	仝	二八〇一、廿、
第廿七日	仝	四一〇	仝	十二〇一、十七、	母下二四〇一、十四、	
第廿八日	仝	四二〇	仝	十二〇十八、	仝	廿四〇一五、
第廿九日	申	二八〇一、十四、	路	十一〇二九、	王上九〇一、九、	
第三十日	仝	廿八〇十五、四六、	仝	十二〇一、廿一、	仝	十〇一、十三、
第廿一日	仝	廿八〇五八、	仝	十二〇廿二、四十、	王下六〇一、廿三、	
第廿二日	仝	三十〇	仝	十二〇四一、	仝	廿二〇
第廿三日	耶	十三〇一、十四、	約	五〇一、廿三、	喇	九〇
第廿四日	仝	十三〇十五、	仝	十二〇廿、	耶	十八〇一、十七、

仝	六〇	仝	九〇一、廿三、	仝	十〇十二、	
仝	十四〇二六、	仝	哥后二〇	仝	六〇	
仝	七〇	仝	十六〇	仝	四〇	
仝	十二〇一、十五、	仝	十二〇一、十五、	加	六〇	
撒前二〇		撒后二〇		來	三〇	
仝	五〇	仝	六〇	仝	八〇	
仝	十〇二八、					

M26

日本聖公會一覽

東京芝區榮町十一番地　監督　イ、ビカス、テス

仝　京橋區築地三十七番地　退職監督　シ、エム、ウイリアムス

常置委員　特撰　エ、シ、ショウ　公撰　田井正一　清水友輔　今井壽道　大塚惟明　エチ、ヂ、ベーヂ　チ、エス、チング　三上熊三　左乙女豐秋　川口榮之進

傳道會社本部委員　エチ、ヂ、ベーヂ　今井壽道　エ、シ、ショウ　田井正一　ゼ、ウイリアムス　山縣與根二

東京地方

東京麻布區飯倉六丁目十三番地　アーチデヤコノ會長　エ、シ、シ、ショウ

仝　京橋區築地廿五番　會長　ゼ、エム、フランシス

仝　廿九番　仝　チ、エス、チング

仝　三十八番　仝　エ、チ、ヂ、ベーヂ

東京々橋區築地四十番	仝	ゼ、シ、アンブラ			
仝 四十一番	仝	エ、アル、モリス			
仝 五十二番	仝	ゼ、ウイリアムス			
仝 五十六番	仝	エル、アル、ウードマン			
仝 芝區榮町十一番	仝	エル、ピ、チヤモレー			
仝	仝	エ、エフ、キング			
仝	仝	シ、ヂ、ガーデナー			
仝	仝	エル、エフ、ライド			
仝 麻布區飯倉片町三十二番地	仝	今井壽道			
仝 本郷區壓町四十六番地	仝	田井正一			
仝 牛込區北山伏町四十二番地	仝	吉澤直江			
神奈川縣横濱市山手二百七番ヒ	仝	エフ、イ、フリーズ			
千葉縣下總國下埴生郡八生村字下福田	仝	飯田榮次郎			
群馬縣前橋曲輪町乙第四十六番地	仝	ゼ、エル、パットン			
靜岡縣駿河國沼津町	仝	山縣與根二			
福嶋縣福嶋町曾根田十六番地	仝	ゼ、ヂ、ウオーラ			

東京々橋區築地二丁目廿九番地	會吏名	出保太郎			
仝 芝區小山町十一番地	仝	嶋田弟丸			
仝 麻布區飯倉片町三十二番地	仝	山田助次郎			
仝 深川區西大ノ町一番地	仝	杉浦義道			
教會及講義所等ノ地名	名稱	信徒又ハ生徒	禮拜日并開講日時	主任者氏名	
東京々橋區築地新榮町七丁目三十九番地	三一教會	百五十二	日前九后二金後八	監督シ、エム、ウイリアムス 會吏名出保太郎	
仝 舟松町	監督公會病院				
仝 入船町	講義所		日、水、後七	監督シ、エム、ウイリアムス 會吏名出保太郎	
仝 築地新榮町七丁目三十七番	立教學校			校長チ、エス、チング 主監左乙女豐 教頭木村俊吉	
仝 二十六番	立教女學校			校長清水友輔 幹事小宮タマ	
仝 五十三番	三一神學校			校長エチ、ヂ、ベーヂ	
仝 新富町	講義所		日後七		
仝 靈岸嶋川口町	仝		日、木、後七	監督シ、エム、ウイリアムス 清田海三郎	
仝 築地五十二番	聖保羅教會	百四十三	日前九半後二、二、水、金、後七	會長ゼ、ウイリアムス	
仝 越前堀一丁目二番地	講義所		日、火、後七	會長ゼ、ウイリアムス 田中利貞	

東京々橋區築地五十二番	明教小學校	生徒五十七		主任ゼ、ウイリアムス堅三 教員（田中利貞、小林）
仝	聖十字教會	六十五	日前九後七聖日后七	會長エ、エフ、キング吉田榮
仝 本八丁堀三丁目四番地	聖慈堂出張所		火、木、土、前九	主任ナース、グレー太郎後藤角
仝 築地廿六番	東京教育院			委員大須賀亮タマ小宮
仝 船松町	愛惠醫院			院長田重雄長
仝 築地一丁目廿五番地	傳道女館			館長ペリー女
仝 八丁堀長澤町	講義所		日、水、金、	安藤騮三郎
仝 芝區榮町十二番地	聖安得烈教會	二百四十六	日前八后四水后七毎日前七半	會長エ、シ、シヨウ山田助次郎 會吏
仝 新網町北二番地	講義所	四	日、木、后七	會長エ、シ、シヨウ三輪昌次郎
仝 南八番地	愛隣小學校	生徒五十		主任内藤菊麿
仝 榮町十一番地	聖安得烈神學部			校長エ、エフ、キング 教員（エ、シ、シヨウエル、エフ、ライド、シ、ジー、ガーデナー、今井壽道、吉澤直江、嶋田弟丸）
仝	仝英學部			教員（エル、エフ、ライド、シ、ジ、ガーデナー、嶋田高橋五弟丸）

仝 三田四國町二番地	喜望教會	四十	日前九后七水后七、	會長エル、エフ、ライド、會吏嶋田弟藤後房藏
仝	講義所		月、火、木、金、土、后七	
仝 麻布區網代町一番地	聖ステパノ教會	四十六	日前九后七木后七	會長今井壽道鵜沼達質
仝 永坂町一番地	香蘭女學校			校長ソーントン女 教員ブルツクスデーン女ノー女ダ女長橋政太郎
仝	聖ヒルダ傳道會			主任ソーントン女傳道伊藤コウ役者磯邊ソヨ酒井マサエ
仝 麹町區上六番町十七番地	博愛教會	廿三	日前十后二	會長ゼ、シ、アンプラー大嶽飛三郎
仝 飯田町二丁目廿二番地	講義所		日前九金后七	會長エチ、ダ、ペーダ栗原素行
仝	小學校			
仝 神田區鍛所町二番地	神田基督教會	百三十	日前九后二、七水后七	會長田井正一
仝 田代町六番地	講義所		金后七	仝
仝 猿樂町三丁目三番地	德育倶樂部			主任仝
仝 神田區松下町廿四番地	講義所		日、木、后七、	會長エチ、ダ、ペーダ藤田某
仝	小學校			

東京日本橋區佐内町一番地	講義所		日后七、火后七	會長エチ、ヂ、ペーヂ中山貞樹	
仝	深川區西元町八番地	眞光教會	六十	日前九后二	會吏杉浦義道
仝	伊豫橋西詰	講義所		日后七	仝
仝	宮岡門前仲町八番地	仝		日、木、后七	會長ゼ、ウイリヤムス田中利堅
仝	松村町廿二番地	講義所		火、後七半	田中利堅
仝		貧民學校	生徒三十		受持教員田中利堅 針ケ谷將
仝	淺草區三好町十番地	講義所		日、金、后七	角中主一郎
仝	黑船町廿八番地	聖約翰教會	七	日前九半后七	仝
仝	老松町十五番地	講義所		日后七	會長ゼ、ヱム、フランシス山田祐 濱田佐太郎
仝	小石川區水道端町四十五番地	仝		日、木、后七	會長吉澤直江 佐藤國三郎
仝	牛込區水道町二番地	昇天教會	百九	日前九后二半金聖日、后七、	仝
仝	三十六番地	牧羊小學校	生徒六十		井上員
千葉縣下總國下埴生郡八生村字下福田		福田教會	八十	日前九后二火、水、后七	會長飯田榮次郎
仝	仝村字松崎	聖保羅教會	二十三	日前十后三木后七	仝
仝	上總國夷隅郡大多喜	講義所			會長飯田榮次郎 森修一
仝	下總國東葛飾郡關宿	仝		火后七	富田元一郎

仝	市川	仝		日前十、	笛米角太郎
仝	安房國チクラ	仝	十八		傳道會社派出員橋久平
福嶋縣信夫郡福嶋馬場町		仝	十八	日前九后七金后七	會長ゼ、ヂ、ウオーラ白石村治
仝	御山道信夫里塾		生徒廿六		主任ゼ、ヂ、ウオーラ
仝	二本松本町	講義所		火后七	會長ゼ、ヂ、ウオーラ白石村治
仝	安積郡郡山町	仝		毎月一回	仝
仝	田村郡三春町	仝		仝	仝
仝	安積郡高倉村	仝		仝	仝
茨城縣下總國古河紺屋町		仝	九		戸塚錄三郎
仝	猿嶋境町	仝	二十	金后二、七	富田元一郎
群馬縣東群馬郡前橋連雀町		前橋聖公會	十七	日前九后七金后七	會長ゼ、エル、パツトン小川治三郎
仝	西群馬郡澁川町	講義所		水、金、后七	仝
仝	高崎字本町新道	仝			會長ゼ、シ、アンプ大野要藏
埼玉縣北葛飾郡幸手町		仝		八日后二、七、金后七	富田元一郎
仝	榛澤郡寄居町	仝		四日后八	市川清爾
仝	武川村大字田中	仝			肥塚勉

埼玉縣大里郡熊谷町本町四百六十七番地	教會	五十一	日前九 日后七	肥塚勉		
〃 川越町字本町十四番地	基督教會	廿五	日前九 日后七	黛新七郎		
〃 入間郡日高村上城	講義所		水后七	〃		
〃 比企郡川嶋村字出丸	〃		金后七	〃		
〃 小川町	〃	二	日前九 金后八	市川清彌		
〃 竹澤村	〃			〃		
〃 武藏松山町	聖路加教會	十三	日前九 日后八	織間小太郎		
〃 中山村大字中山	講義所		毎月二日 六日后七	〃		
〃 神奈川縣横濱市壽町三丁目百三十番地	聖安得烈教會	三十三	日前九 日后七 水七	〃	會長エフ、イ、フリーズ 永嶋保太郎 田口善之介	
〃	講義所					
〃 相摸國大住郡秦野村	秦野講義所	四十三	日前七 日后八 水后八	會長山縣與根二 傳道會社派出員山田茂三郎		
〃 愛甲郡玉川村	講義所	二十九		〃		
〃 小鮎村字飯山	〃	五		〃		
〃 中津村	〃	七		〃		
〃 西多摩郡青梅町五十六番地	〃	四	日前九 日后七 水后七			
〃 北多摩郡府中驛三十五番地	〃			岡村豐三郎		

〃 本宿	北多摩教會	五十九	日后二、七半、	〃		
〃 内藤	講義所			〃		
〃 字小金井	〃		毎月三回一ノ日后八	〃		
〃 小川	〃			〃		
靜岡縣駿河國駿東郡沼津町上土百八十一番地	聖公會沼津講義所	十三	日前九 日后七 水后七	會長山縣與根二 佐竹準		
〃 富士郡須津村字川尻	講義所			〃		
〃 大宮町	〃			會長山縣與根二 牧野與三郎		
〃 伊豆國賀茂郡伊東村字猪戸	聖公會伊東講義所	十	日前九 日后八	會長山縣與根二 海保熊次郎		

大阪地方

大阪市川口三番	アーチデヤコノ會長	シ、エフ、ワレン				
〃 七番	會長	ジヨン、マキム				
〃 十四番	〃	デ、エム、ランク				
〃 十八番	〃	ジ、チヤプマン不在				
〃	〃	エチ、エル、ブリヒー				
〃 廿三番	〃	ヒ、ケ、フワイソン				

大阪市川口三十六番	會長	ジ、エチ、ポール	
仝　桃山高等英學校	仝	エチ、イ、ブライス	
仝　京町堀上通り二丁目十七番地	仝	寺澤久吉	
仝　薩摩堀南町四十七番地	仝	牧岡鉄彌	
仝　土佐堀五丁目廿八番地	仝	木庭孫彦	
岐阜縣岐阜市岩根町	仝	エ、エフ、チヤツベル	
愛知縣名古屋東片端町三丁目四十三番地	仝	ゼ、シ、ロビンソン	
仝	仝	ゼ、エム、ボールドイン	
仝	仝	エチ、ゼ、ハミルトン	
奈良縣添上郡春日野村	仝	アイ、ドーマン	
京都市上京區今出川通寺町西へ入常盤井殿町	仝	エ、チ、グリング	
兵庫縣神戸四ノ宮松ノ舍	仝	ヒユ、ゼ、フチス	
仝	仝	エ、チ、ムアー	
德嶋市富田浦町	仝	ダブルユ、ピ、バンコム	
仝　元町二百三十番	仝	シ、チ、ワレン	
嶋根縣松江內中原町七十四番地	仝	ピ、エフ、バクストン	

廣嶋縣備后國福山小丸山	仝	エス、スチン	
大阪市東區嶋町二丁目十九番	會吏	中西義之	
大阪市備后町一丁目番外二番	仝	皆川晃雄	
仝　川口居留地照暗女學校內	仝	近重利澄	
仝　西成郡下福嶋村字下福嶋番外九番屋敷	仝	百木惠一	
奈良市角振六番地	仝	山邊久吉	
兵庫縣神戸下山手通五丁目三十三番	仝	水野功	
廣嶋縣廣嶋市大手町三丁目五十七番地	仝	寺田藤太郎	
廣嶋縣備后國福山初町	仝	荒瓜琢哉	

教會及講義所等ノ地名	名稱	信徒又ハ生徒	禮拜日并開講日時	主任者氏名
大阪市東區伏水町一丁目十三番地	聖ヨハネ教會	五十七	前九金后七日	會長ジョン、マキム 會吏皆川晃雄
仝　仝博勞町一丁目	講義所		水后七	會吏皆川晃雄
仝　道修町一丁目	大阪救兒院	生徒廿		侯野マス女
仝　道修町八百屋町角	大阪婦人學修會	生徒廿五		主任森貞次 教員パーマ女ブール女
仝　横堀五丁目三十五番地	聖保羅教會	百三十五	前九金后七日	會長ジョン、マキム 會吏近重利澄
仝　東區嶋町二丁目十九番地	講義所	十三	前九半后七日	會長シ、エフ、ワレン 會吏中西義之

大阪西區京町堀上通二丁目	聖三一教會	二百五十五	日前十后三、七、金后七	會長	寺澤久吉	
仝 京町堀五丁目	講義所		二七ノ日及日后七	仝		
仝 新町南通三丁目百廿四番地	救主教會	百廿一	日前九半后二、七、	會長	牧岡鉄彌	
仝 北堀江三丁目	講義所		日及三九ノ日后七、	仝		
仝 川口居留地	川口基督教會	百七十	日前九時后七時半金后七時半	會長	ジヨン、マキム	
仝 西成郡上福嶋村字上福嶋梅川橋北詰	講義所		日后七時	會吏	百木惠一	
仝 仝	貧民學校	生徒十八		主任教員	林可彦 堀シン	上村半四郎
仝 西成郡傳法村字北傳法	講義所	八	日后二、七水后七		武田俊造	
仝	英語夜學校	生徒二十		仝		
仝 阿波座上通阿波橋筋日向町角	大阪實業會	生徒二十		主任	近重利澄	
仝 新町通四丁目	講義所		毎月一日十五日后七	會吏	仝	
仝 川口居留地六番	照暗女學校	生徒四十五		校長	ジヨン、マキム	
				教員	ラベル女	
				幹事	近重利澄	
仝 八番	バルナバ病院			院長	エチ、ラニン	
				幹事	林・虎之助	
仝 十二番	プール女學校	生徒五十		校長	ツリスツラム女	
				教師	ボールトン女不在	
					ハワード女	
仝 十七番	英國傳道會社女子神學校	生徒九		校長	コックス女	

仝 十八番	聖三一神學校			校長	ヒ、ケ、フワイソン	
				教員	ジ、エチ、ボール	
					木庭孫彦 山田清風	
仝 南區内安堂寺町	上町聖公會	廿一	日前十、后三、水后七	會長	木庭孫彦	
仝 東成郡天王寺桃山	高等英學校			校主	寺澤久吉	
				校長	エチ、イ、プラマス	
				仝副	エチ、エル、プリビ	
仝 西成郡木津村	講義所		木、后七	會吏	近重利澄	
仝 和泉國堺市ノ町一番地	聖テモテ教會	四十六	日前九后七半水后七半	會長	ジヨン、マキム落合吉之助	
和歌山縣和歌山市西汀町	救主教會	九十八	日前九、后七	會長	アイ、ドーマン菅春	
仝 新町通二丁目	講義所		日后七、		堀内穣	
仝 紀伊國那賀郡名手	仝			仝		
仝 丸栖	仝					
仝 伊都郡橋本村	橋本基督教會	三十四	日前八后七水、后七、	會長	アイ、ドーマン部德三郎	
仝 橋本村百十四番地	女子技藝學校	生徒十五		主任	卜部德三郎	
滋賀縣滋賀郡大津町大字中原廿二番地	講義所	二十六	日前九金后七后七	會長	エ、ヂ、グリン福井永賴	
仝 大上郡彦根町大字河原	仝	二	木后七半	會長	エ、ヂ、グリン新井和臣	

仝	高宮町	仝				仝
仝	膳所村	仝		木后七、		仝
仝	坂田郡長濱町大字北船百十四番地	仝	二十一	日前九水金後七后三	會長福井永和 エ、チ、グリング新臣賴	
三重縣伊賀國阿拜郡上野小玉町		仝	十三	日前九金后七後七	會長ジョン、マキム永田保次郎	仝
仝	名張	仝		水后七火后七		仝
岐阜縣岐阜市岩根町四十八番地		岐阜聖公會	三十七	日前九、水后七	會長エ、マエフ、チヤペル	
仝	秋津町	講義所		火后七半	貫主	仝
仝	鐵屋町	仝		金后七半		仝
仝	厚見郡加納町四丁目	加納講義所	八	日前九木后七半	會長エ、エフ、チヤペル貫主稅	
仝	安八郡大垣本町	大垣聖公會假會堂	十二	日前九金后七		仝
仝	大垣俵町	講義所		水后七、	本田清次	
仝	石津郡高須町	高須講義所	六	日前九后七水后七	森卷耳	
愛知縣名古屋市下江川町三丁目百七十番地		講義所	十六	日前九后七水木后七	會長ゼ、シ、ロビンソン、ゼ、エム、ボールドイン、エチ、ゼ、バミルトン	
仝	中嶋町一ノ宮町	仝			林太郎 佐市伯好	仝
仝	海東郡津嶋町	仝				仝

福井縣越前國敦賀町字清明	教會	十四	日前九后七金后七		會長エ、チ、グリング行城	安
仝	若狹國遠敷郡雲濱村竹原	聖惠教會	七十三	日前九后七	傳道會社派出員井筒銳三郎	
仝	小濱町白鬚	講義所		火后七		仝
仝	西津村	仝		水后七		仝
奈良縣大和國宇知郡五條町		五條聖公會	五十七	日前八后八金后七	會長アイ、ドーマン ト部德三郎	
仝	大和國三輪村百廿三番地	講義所	廿九	日前八后八月后七	宮生主若	
仝	十市郡櫻井町二百廿六番地	仝				仝
仝	田原本町字八幡町	田原本基督教會	二十四	日前八后八	松嶋常松	
仝	廣瀨郡百濟村	百濟基督教會	二四	日前十后三水后七		仝
仝	葛下郡高田町	基督教會	三十一	日前九后七半水後七半	渡邊義孝	
仝	葛上郡御所町	講義所	七	金后七、		仝
仝	添上郡奈良町大字花芝	基督教會	八十三	日前九後七水后七	會長アイ、ドーマン會吏山邊久吉	
仝	奈良町	講義所			會吏山邊久吉	
仝	大字登大路	奈良英和學校				
京都府下京區五條橋東二丁目廿七番戶		京都聖公會	三十二	日前九後七	會長エ、チ、グリング多川幾造須基浩	

仝	四條通烏丸東入長刀鉾町四番戸	講義所	火、金、后七	仝	
兵庫縣神戸市中山手通六丁目	聖ミカエル教會	百十二	日后九 后二	會長ヒュ、ゼ、フチス 會長エチ、ムアー 水野功	
仝所生田前通九番地	講義所		日后七 木后七		
仝	仲町相生町鎮臺筋七百四十二番地	仝	日后三 水后七	仝	
仝	中山手通三丁目外ノ五號	乾行義塾	生徒七十五	校長エチ、ヒウス 幹事村和介 教師エチ、ムアー	
仝	中山手通六丁目	松陰女學校	仝十一	校主ヒュ、ゼ、フチス	
仝	下山手通七丁目	看病婦學校	仝三	校長シヤロク女	
仝淡路國津名郡洲本内町通一丁目五十八番地	眞光教會	二十五	日前九 后二、七半 金、后七半	會長ヒュ、ゼ、フチス 新家錨三郎	
仝	洲本紺屋町	講義所		火后七半	仝
仝	山田村大字明神	講義所	六	日后二	仝
仝	三原郡賀集村ノ内田中村	仝	十二	日后二	仝
仝	津名郡岩屋町	仝	八	日后二、七、木后七	會長エチ、ムアー 栖岡斧藏
仝播磨國加東郡福田村大字中古瀨二百廿二番地	顯榮教會	四十一	日前九 后七 木后七	會長ヒュ、ゼ、フチス 石田德太郎	
仝	社町	講義所		月二回	仝
仝	上東條村ノ内天神村六番地	仝	十	日前八 水后七	藤井平太郎

仝	美囊郡古市村	仝		月二回	仝
仝丹波國多紀郡今田村内今田新田村十二番地		仝	十一	日后七	仝
德嶋縣德嶋市大字塀裏町七十二番地	德嶋教會	八十九	日前九 後二、七、木后七	會長ダブルユー、ビ、バンコム 仝シ、チ、ワレン 牛嶋惣太郎 内田茂二	
仝	鷄匠町	講義所		水、金、后七	
仝	德嶋町	仝		火后七	仝
仝	住吉町十丁目	仝		金后七	會長シ、チ、ワレン 内田茂二
仝	那賀郡富岡村大字富岡町	講義所	三十	日前十 后七 金后七	
仝	本莊村	永生教會	十六	日前十、后三 金后七	
仝	美馬郡脇町	講義所	十六	日前九 后七 木后七	山崎孝太郎
仝	板野郡撫養町大字林崎村	仝	十	日前八 后七 木后七	益田喜代吉
仝	名西郡石井村	仝		火后七	内田茂二
鳥取縣伯耆國會見米郡子天神町一丁目十二番地		仝	二十	日前九 后七半 木后七半	森淑次郎
仝	米子紙町一丁目廿二番地	仝		金后七半	仝
仝	境上リ道村	仝	十三	日前九 后八 木后八	畠山重規
仝	境町	仝		金后七、	仝
嶋根縣出雲國松江市北殿町	教會	八十七	日前九 后二半 木后七	會長ビ、エフ、バクストマン 富田孫太郎	

1726

仝	白潟本町百十二番地	講義所		日、金、后七	布施好古	
仝	北堀町二百四十六番屋敷	仝		日、火、水、后七	富田孫太郎	
仝	石見國那賀郡濱田町大字原井九十七番屋敷	濱田基督教會	二十五	日前九后七半 木、金、后七半	會長デ、エム、ラング久保民生	
仝	江津并ニ渡津	講義所	十六	木、金、后七半	仝	
仝	美濃郡益田町	益田教會	二十九	日前九后八 水后八	會長デ、エム、ラング村田里	
廣嶋縣廣嶋市大手町三丁目五十七番地		廣嶋基督教會	十九	日前九后七半 水后七半、	傳道會社派出員 會吏寺田藤太郎	
仝	備後國福山米屋町	福山基督教會	百六	日前八半后七半 木后七半	會長エス、スチ、ス 會吏荒砥琢哉	
仝	船町	講義所		水后七半	會吏荒砥琢哉	
仝	吉津町	仝		月后七半	宇野秀太郎	
仝	沼隈郡鞆町字西町	仝		日前九后七 火后七	仝	
仝	東町	英和學館	生徒五十一		校主高橋秀太	
仝	芝田郡府中村	古府基督教會	十八	日前九后七半 水后七半	大塚惟修	
熊本地方						
長崎縣長崎市川嶋九番地		アーチデヤコノ會	長	エチ、モンドレル不在		
仝	大浦東山手町七番地	會	長	エ、アル、フルラ		

熊本縣熊本市草葉町五番地		仝		エチ、エビントン		
仝		仝		ゼ、ブランドラム不在		
福岡縣福岡市濱町廿三番地		仝		エ、ビ、ハチンソン不在		
仝				ゼ、ハ、インド		
教會及講義所等地名	名稱	信徒又生徒數	禮拜日并開講日時	主任者氏名		
長崎縣長崎市大村町八番地一	教會	八十三	日前九后七	會長エ、アル、フルラ洪恒太郎		
仝	新大工町七番地	講義所		日、水、后七	仝	
仝	東山手三番地	女學校	生徒十		校長グリーンドル教師ハーリビー女女	
仝	南高來郡嶋原鐵砲町	講義所	三		會長エ、アル、フルラ副嶋虎十	
鹿兒嶋縣鹿兒嶋市		講義會	四十七	日前十后二、七半 水后七半	會長エ、アル、フルラ飯牟禮正次	
仝	中村	講義所			仝	
熊本縣熊本市紺屋今町四十六番地		教會	三十七	日前九后七 水后七	會長エチ、エビントン古閑武平	
仝	玉名郡荒尾村	講義所	十三	日前十后七	會長エチ、エビントン藤井寅一	
大分縣大分郡大分町字書入町五百五番地		大分聖公會	八	日前九后八 水后八	笠置直之	
宮崎縣日向國東臼杵郡延岡卿澤町		教會	十六	日前九半后七 水后七	會長エチ、エビントン津田應介	
仝	西臼杵郡高千穗上野村	講義所	十	日前十后七 水后七	會長エチ、エビントン	

仝	白潟本町百十二番地	講義所		日、金、后七	布施好古	

福岡縣福岡市土手町五番	アルパ教會	百七十三	日前九后七 金后七	會長セ、ハイド、渡邊保治		
仝	添口町六十二番地	講義所		日后八水后七	仝	
仝	大名町五十番地	仝		水后七木后七	仝	
仝	筑前國鞍手郡勝野村小竹	仝	三十四	日前十后七水后七	山下有任	
仝	嘉麗郡宮野村小野谷	仝	二十六	日前九后七	仝	
仝	筑後國山本郡草野村	小山田教會	百五十	日前九后三水后七	中村龜三郎	
佐賀縣佐賀市水ケ江町百六拾番		佐賀聖公會	廿五	日前九		

函館地方

渡嶋國函館區元町五十三番地		會長ダブルユー、アンデレス				
石狩國札幌北三條西七丁目一番地		仝ゼ、バチロー				
教會及ビ講義所等ノ地名	名稱	信徒又ハ生徒	禮拜日并開講日時	主任者氏名		
渡嶋國函館區曙町	函館教會	八十七	日前九后三	會長ダブルユー、アンデレス副嶋儀三		
仝 元町五十三番地	婦人傳道會			教員タプソン女保木メキ寺澤ト梢		
仝	普及婦人慈善會			教員アンデレス夫人齋藤ドキ		

仝	靖和女學校	生徒二十八		校長ダブルユー、アンデレス 幹事小川淳 教師アンデレス夫人鈴木タキ 神山ミヨシ小川カネ		
渡嶋國函館區大黑町	講義所		日后六半 水后六半	副嶋儀三		
仝國龜田郡龜田村	仝	十	日后三時	小川淳		
仝國同郡大野村	仝	七	日前九時 木后六半 后六半	奥村忠太郎		
仝國仝郡市ノ渡村	仝		金后六半	仝		
仝國上磯郡上磯村有川	仝		火后六半	仝		
仝國檜山郡江差山上	仝		木后七時	黑田富雄		
仝國檜山郡江差詰木石	仝		日后七時	仝		
仝國仝郡江差法花寺町	教會	三十五	日前十時	仝		
仝國仝郡上ノ國	講義所		月二回后七時	仝		
仝國仝郡舘村	教會	二十二	日前九時	猪飼正爲		
仝國仝郡俄虫村	講義所		木后七時	仝		
仝國爾志郡乙部村	仝		月一回后七時	仝		
仝國仝郡熊石村	仝		仝	傳道會社派出員山田致八		
仝國久遠郡久遠村	教會	十四	日前九時后七時 月二回后七時	仝		

膽振國幌別郡幌別村	教會	二十二	日前九時 后三時	伊勢田清實	
仝國室蘭郡輪西村	室蘭教會	二十九	日后三、七 水后七	仝	
仝國仝郡仝村字ベシポツケ	講義所		一週一度	仝	
仝國勇拂郡トマコマイ村	仝		月一回	仝	
釧路國釧路郡釧路浦見町	教會	三十六	日前九時 后七時	岡部久吉	
仝	講義所		金后七時	岡部久吉 白橋ツネ	
仝	英和女學校	生徒十		主任ペイン女	
釧路國釧路郡鳥取村	教會	三十一	日后二 水后七	岡部久吉	
仝國厚岸郡太田村	教會	二十	日前九 后六半	中村一	
仝國仝郡厚岸町	仝	十	日前后九七 水后七	中村周二	
仝國仝郡霧多布村	講義所		月一回	仝	
仝國仝郡濱中村	仝		一ヶ月一回	仝	
北見國網走郡網走村	教會	二十四	日前九后七水后七	藤本與喜	
十勝國十勝郡大津村	仝	三	日后七	鯨岡寅吉	
釧路國白糠郡尺別村	講義所	五	月一回	仝	
仝國仝郡白糠村	仝			仝	

日高國幌泉郡幌泉村	仝			仝	
十勝國廣尾郡廣尾村	仝		仝	仝	
仝國河西郡帶廣村	仝		仝	仝	
膽振國幌別郡幌別村	愛隣學校	生徒十		教頭シ、ネトルシップ	
釧路國釧路郡春鳥村	土人學校	三十八		主任ペイン女	
仝	土人講義所		日前十一	仝	
北海道	アイヌー公會	十一		會長ゼ、バチロー シ、ネトルシップ 芥川清五郎	
石狩國札幌區北五條西五丁目二番地	講義所	二十二		會長ゼ、バチロー	

各地傳道祈禱表

人生一般ノ福祉ヲ圖リ聖公會全体ノ鴻益ヲ興スハ吾人ノ常ニ忽諸ニ附スベカラザル處ナルガ特ニ内外各地傳道ノ爲熱心ノ祈禱ヲナスモ亦信徒ノ重ナル務ナリ故ニ從來降臨節定期ノ外臨時ノ祈禱會ヲ開クコトアリト雖モ固ヨリ年中稀有ノ擧ニシテ且完全ナラザルノ憾ナシトセズ思フニ如斯キ公益ノ祈禱ハ吾人信徒ニ於テ且夕其心ヲ一ニシ其趣ヲ同フシテ以テ等シク神前ニ請願セバ必ラス之ヲ嘉納シ給フヤ明ナリ故ニ茲ニ内外傳道各地ヲ區分シ且其請願ノ當日ヲモ制定セリ願クハ本暦ノ課程ニヨリ聖書ヲ讀ムノ諸氏ハ尚本表ニ就キ其時々各地傳道ノ爲ニ只管請願アランヿヲ

曜日	内外	傳道地
月曜日	外	英米両國傳道本部
	内	東京地方東部
火曜日	外	亞細亞
	内	東京地方西部
水曜日	外	歐羅巴
	内	大阪地方東部
木曜日	外	亞非利加
	内	大阪地方西部
金曜日	外	亞米利加
	内	熊本地方及琉球
土曜日	外	奥太利幷ニ各群嶋
	内	函館地方

先輩紀念日の緒言

聖公會に於ては其創始より今日に至るまで日曜日の外尚聖日の定めあり

第一　基督及び其母に關するの日即ち降誕日受割禮日、蒙喜日等　日數八日

第二　聖書中に記せる聖徒及び使徒等の日　日數十九日

さて吾人の聖徒の爲に神に感謝し且之を記臆して其模範に倣ふは當然の義務なり然れども若し其定日なきときは此二の事を輕んじ又全く之を忘却するの恐れなしとせず故に我聖公會に於ては之を記臆するの日を定め且心を肉慾より放ち靈の上達に適せしめんが爲に屢其前日に斷食を爲すことを定めたり此聖日は大概聖徒の死日にして即ち完き喜びに產るゝの日なり

吾人の守るべき日は以上の如し併し英國聖公會の略暦を閲すれば右の外聖書に掲げざる第二の貴き人々の氏名死日をも記載せり此人々は即ち年を經るに從ひ万國各地の教會に在りて著しき功績を顯はしたるものなり元より我公會は基督の体なる一の枝なれば相離るゝことなく吾人が信仰の先輩も亦忘るべからざるものなり故に略暦中に記載して吾人の紀念に備ふるは決して無益の業にわらざるべし仍て茲に登載して諸氏の參按に供す

先輩紀念日表

月日	國、位、種屬、	人名	年代	月日	國、位、種屬、	人名	年代
一月八日	佛國會長	ルキアン	二百九十年殉死	三月二日	英國監督	チヤード	六百七十三年死
仝十三日	仝監督	ヒラリ	三百六十七年死	仝七日	亞非利加女	ペルペツア	二百三年殉死
仝十八日	羅馬處女	プリスカ	二百七十年殉死	仝十二日	羅馬監督	グレゴリ	六百四十年死
仝廿日	仝監督	フアビアン	二百五十年殉死	仝廿一日	伊太利亞僧	ベネデクト	五百四十三年死
仝廿一日	仝處女	アグネス	三百六年殉死	四月三日	英國監督	リチアド	千二百五十三年死
仝廿二日	瑞典會吏	ウヰンセント	三百四年殉死、	仝四日	伊太利亞監督	アンブロウス	三百九十七年死
二月三日	カパトキア監督	ブラシチ	三百十六年殉死	仝十九日	英國大監督	アルバイヂ	千十二年殉死
仝五日	シヽリ嶋處女	アガタ	二百五十三年殉死	仝廿三日	スリヤ兵士	ジヨウチ	三百三年殉死
仝十四日	羅馬監督	バレンテノ	二百七十年殉死	五月十九日	英國大監督	ダンスタン	九百八十八年死
三月一日	ウエルス大監督	ダビデ	五百四十四年死	仝廿六日	英國第一大監督	オーガステン	六百四年死

五月廿七日	仝 會長	ビー デ	七百三十五年死	十月十三日	英國王	エドワード	千六十六年死
六月一日	亞細亞會長	ニコメデ	九十年殉死	仝 十七日	仝 處女	エテルレダ	六百七十九年死
仝 五日	獨乙監督	ボニヘース	七百五十五年殉死	仝 廿五日	羅馬傳道士	クリスピン	二百八十八年殉死
仝 十七日	英國兵士	アルバン	三百三年殉死	十一月六日	佛國 僧	レナード	五百五十九年死
七月十五日	仝 監督	スヰデン	八百六十二年死	仝 十一日	墺國監督	マルケン	四百年死
仝 廿日	アンテオケ處女	マガレタ	二百七十八年殉死	仝 十三日	佛國監督	ブリデチ	四百四十四年死
八月十日	羅馬アキデヤコノ	ロレンチヨ	二百五十九年殉死	仝 十五日	仝	マクウト	五百六十四年死
仝 廿八日	亞非利加監督	オーガステン	四百三十年死	仝 十七日	英國監督	ヒユウ	千二百年死
九月一日	佛國 僧	ジヤイレス	七百廿五年死	仝 廿日	仝 國王	エドモンド	八百七十年殉死
仝 十七日	獨乙監督	ランベルト	七百九年殉死	仝 廿二日	羅馬處女	シシリヤ	二百三十年殉死
九月廿六日	亞非利加大監督	クプリアン	二百五十八年殉死	仝 廿三日	仝 監督	クレメント	百年殉死
仝 三十日	伊太利亞會長	ゼロム	四百廿年死	仝 廿五日	亞非利加處女	カタリナ	三百七年殉死
十月一日	佛國監督	レミジヤ	五百三十三年死	十二月六日	亞細亞監督	ニコラス	三百四十二年死
仝 六日	仝 處女	ヘイツ	二百九十年殉死	仝 十三日	伊太利亞處女	ルシヤ	三百四年殉死
仝 九日	仝 監督	デニス	二百七十五年殉死	仝 三十一日	羅馬監督	シルエステル	三百三十五年死

日本聖公會法憲法規

○法憲

第一條　本會ハ新舊約聖書ヲ以テ救ヲ得ルノ要道ヲ悉ク載セタル神ノ默示ナリト信ジ且ツ「ニケア」信經及ビ使徒信經ニ纂約セル信仰ノ道ヲ公認ス

第二條　本會ハ主基督ノ命ジ給ヘル教理「サクラメント」（バプテスマ聖晩餐）及ビ訓誡ヲ施行シ且ツ監督會長會吏ノ三聖職ヲ固ク守ルベシ

第三條　本會ハ救主紀元千八百八十七年ヨリ毎二年ニ總會ヲ開クベシ（其時日會場ハ當時日本ニ在留スル監督ノ定ムル所ニ據ル）但シ監督ハ常置委員ト商議ノ上臨時總會ヲ開クヿヲ得ベシ

第四條　總會ハ監督及ビ其認可狀ヲ有スル諸教職（懲戒中ノ者ヲ除ク）幷ニ各地方會ニテ撰擧シタル信徒代議員ヲ以テ組織スルモノトス（地方會ノ法規第十章ニ在リ）但シ教職ノ人員增加シタルトキハ教職モ信徒ト同ジク代議員ヲ出スベキモノトス

第五條　會議ニ於テ監督ハ其可否ノ數ヲ別ニスベシ教職及ビ信徒代議員ハ之レヲ共ニシ又ハ別ニスルコトヲ得ベシ而シテ會議ノ可否決ハ監督ノ多數ト教職及ビ信徒代議員ノ多數ニ據ル但シ監督ノ數二名而已ナルトキハ若シ其一名教職信徒ノ多數ニ加ハレバ之レヲ以テ議決セシ者トス

第二條ノ憲法ハ第三條ノ法規ニ修正

第三條ノ法規ハ以下ノ法規中ニ編合スベシ

第三條ノ法規ハ第三條ノ法規ニ統一スベシ

その結果ハ如何ナリシヤ

議決の誤植なるべし（函井）一九五

第六條　正當ニ招集セル總會ノ議權ハ左ノ如シ

(一)本會ノ平安進歩ニ係ル事件ヲ議スル丁(二)内外傳道會社ヲ設立シ之レヲ管理スル丁(三)法規ヲ改正スル丁(四)法憲ヲ改正スルコト但シ其改正案ヲ定期總會ニ提出シ其承諾ヲ得テ次ノ定期總會ニ於テ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

第七條　總會議長ハ臨席セル先任ノ監督タルベシ

法憲　當分ノ内日本人中議事ニ熟練ナルモノヲ撰ビ議長ノ事務ヲ取リ議場ヲ監理セシムベシ（当総会ヨリ実行センコトヲ望ム）

救主紀元千八百八十七年總會ノ決議

法憲法規ノ卷中ニ祈禱文及ビ大綱ヲ加フベキ位置ヲ定ムルコトヲ延期シ該期内ハ現今ノ儘之レヲ採用スルコト

○法規　星點ヲ付シタル章ハ審議ヲ延期シタルモノ

第一章　聖職志願者許可ノ丁

第一條　總テ本會ノ聖職志願者ハ左ノ證明書ヲ監督及ビ常置委員ニ差出スベシ　常置委員ノ丁法規第九章ニ在リ

證明書

族籍　姓名

年齢

右ハ敬神醒虔正直ノ人ニシテ日本聖公會ノ教理訓誡拜式ニ服從シ善良ノ名聲アル受聖餐者ニシテ聖職修學ノ課程ニ入ルニ相當スル資格ヲ有スル者ナルコトヲ證明仕候也

年　月　日　姓名　印

宛

右證明書ハ志願者ノ附屬スル教會ノ牧師及ビ教會委員ノ記名調印スベキ者トス而シテ止ムヲ得ザル場合ト雖モ會長一名及ビ志願者ノ附屬スル教會ノ受聖餐者六名ノ連署タルベシ

第二條　常置委員ハ右ノ證明書ヲ受ケタル後チ志願者ノ躰格及ビ智力道德信仰ノ資格ニ付テ満足スルトキハ該委員多數ノ連署セル左ノ證明書ヲ以テ之レヲ監督ニ推薦スベシ

證明書　族籍　姓名

年　齡

右ハ敬神醒虔正直ノ人ニシテ日本聖公會ノ教理訓誡拜式ニ服從シ善良ノ名聲アル受聖餐者ニシテ聖職豫備ノ學程ニ入ルニ相當スル資格ヲ有スル者ナルヿヲ證明致シ候也

年　月　日　　姓　　名　　印

名　　宛

第三條　本會ガ總テ聖職ヲ志願スル者ニ向テ其心ノ中ニ全能ノ神ヲ敬畏シテ崇拜スルヿ宗教ヲ愛慕スルヿ其聖化力ニ感應スルヿ誠意ヲ以テ人ヲ愛スルヿ等ノ如キ定規ニ因テ試驗セラレザルモノ卽チ聖靈ノ結ベル果ト聖書ニ稱セラル諸德ヲ修ムルヿヲ希望スルハ勿論ノヿニシテ又監督及ビ常置委員ヨリ至當ノ場合ニ於テ之レヲ志願者ニ知ラシメ且ツ彼レヲ奬勵シテ之レニ就テ自カラ顧ミル所アラシムベシ

第四條　監督ハ是等ノ證明書ヲ受ケタルトキハ常置委員ヨリ推薦セル者ノ會吏志願者タルヿヲ許可シ聖職志願者名簿ニ其姓名及ビ許可ノ年月日ト證明書ニ連署セル會長ノ姓名ヲ記入シ志願者ニ之レヲ告ゲ且ツ同時ニ其修學ノ課程及ビ其試驗ニ於テ差出ス說教文ノ題トスベキ聖書ノ章句ヲ知ラ

シムベシ

若シ志願者ノ許可ニ關シテ監督ト常置委員多數ト其說ノ合ハザルトキハ總會ニ議員タル諸監督ノ意見ヲ問ヒ其裁決ニ任スベシ

第五條　志願者ノ學術試驗ヲ定ムルヿ左ノ如シ

日本國語、和文學及ビ地理、歷史、脩身學、論理學、漢學、英學等ノ大意（希臘語希伯來語ノ試驗ニ應ズベキ豫備ヲ爲スハ最モ希望スル所ナリ）

監督ハ至當ノ理由アルトキハ常置委員ト商議ノ上志願者ノ試驗課目ヲ省略スルヲ得ベシ

第六條　試驗ハ監督ノ定メタル講師ノ行フ者トス

第二章　許可ヲ得タル志願者ノヿ

第七條　聖職志願者ノ管理及ビ其修ムベキ神學課目ノ指圖ハ其命職前一年間ハ監督ト講師ノ商議ニ據ル

第八條　講師ハ毎六ケ月ニ聖職志願者ノ學業ノ進步及ビ其日常起居ノ摸樣ヲ監督ニ報告スベシ但シ獨習スル者ハ自カラ其報告ヲ爲スベシ

第三章　命職試驗ノヿ

第九條　會吏ノ職ヲ志願スル者ハ試驗講師ノ指圖ニ從ヒ口答筆答ノ試驗ヲ

受クベシ監督ハ其意ニ任セ臨席シテ其試驗ニ與カルヿアルベシ

試驗課目左ノ如シ

(一)聖書意義大躰(二)新舊約書中ヨリ選拔セル書(三)公禱文書其目歷史(四)教會史及ビ教會政治(五)教會司牧要理(六)基督教々理(三)信經及ビ大綱(七)基督教證據論(八)基督教倫理

附則第一　右ノ外志願者ノ司會及ビ說教ノ能不能ヲ試驗スベシ

附則第二　監督ハ至當ノ理由アル片ハ常置委員ト商議ノ上試驗課目ヲ省略スルヲ得ベシ但シ邦語聖書及ビ祈禱文大綱ハ此限ニアラズ

第十條　會長ノ職ヲ志願スル者ニハ其試驗書目ヲ監督ヨリ指示スベシ

第四章　命職ノ事

第十一條　聖職ニ任ゼラレント欲スル者ハ左ノ誓書ニ記名調印スベシ

我レ新舊約聖書ハ神ノ道ニシテ救ヲ得ルノ要道ヲ悉ク載セタル者ナルヿヲ信ジ又謹テ日本聖公會ノ教理拜式ヲ固守スルヿヲ約ス

第十二條　聖職志願者ハ許可ヲ得シヨリ三箇年以內ニ命職サルヽヲ得ズ然レ片格別ノ理由アレバ監督ハ其期限ヲ短縮スルヲ得ベシ

第十三條　會吏ノ職ヲ志願スル者ハ會長二名（其內一名ハ成ベク志願者ノ牧師タルベシ）及ビ其附屬

スル教會ノ委員三分ノ二或ハ止ヲ得ザル場合ニハ該教會ノ受聖餐者六名ヨリ左ノ證明書ヲ監督及ビ常置委員ニ差出スベシ否ラザレバ命職セルヽヲ得ズ

族籍　姓名　年齡

右ハ過ル三年間敬神醒虔正直ニシテ日本聖公會ノ教理訓誡ニ反違スルヿヲ或ハ書シ或ハ教ヘ或ハ信ゼシヿナキヲ我等保證シ且ツ會吏ノ聖職ニ任ゼラルヽニ適當ノ人ト存候也

右ノ證明ハ我等ガ去ル二年間同人ヲ親ク知ル所ニ據リ其前二年間ハ充分ト認ムル證跡ニ據ル者也

年　月　日　姓　名　印

名　宛

監督及ビ常置委員右ノ證明書ニ滿足スレバ監督ハ該志願者ニ命職スルヲ得ベシ

第十四條　會吏ノ聖職ニ滿二十一年以下ノ者ヲ任ズベカラズ

第十五條　會長ノ職ヲ志願スル者ハ本章十三條ニ載セタル者ト均シキ證明書ヲ監督及ビ常置委員ニ差出スベシ否ラザレバ命職サルヽヲ得ズ

第十六條　會長ノ聖職ニ滿二十四年以下ノ者ヲ任ズベカラズ

第十七條　凡テ外國監督教會ニ屬スル聖職ニシテ日本聖公會ノ聖職ト同一ノ權利ヲ有セントヲ願フ者ハ左ノ誓書ニ記名調印スルヲ要ス

我日本帝國ニ在留中ハ日本聖公會ノ法憲法規ニ服從スルヿヲ約ス

年　月　日　　何　某　（印）

第五章　通則

第十八條　認可教職及ビ信徒役員ハ公禱式ヲ司ルベキ權利ヲ授ケラレタル證據明カナラザル者ナシテ其教會ノ公禱式ヲ司ラシムベカラズ又教會委員ノ意ニ反スル時ハ説教ヲモ爲サシムベカラズ

第十九條　教會ノ教職ヲ撰舉スル權利ハ該教會委員及ヒ撰舉委員（撰舉委員ノ法規第十章第六條ニ在リ）ニ屬ス若シ之レヲ撰舉シタル片ハ其姓名ヲ監督ニ申出ヅベシ監督ハ同人ヲ以テ日本聖公會ニ於テ命職サレタル者ト認ムレバ制規ニ從テ該會ノ教職ニ任ズベシ但シ監督ハ該教會委員ヨリ左ノ書面ヲ領收スル迄ハ

之レニ任ズルヿヲ猶豫スベシ

我等何誰ニ金何圓ノ俸給ヲ與フルヿヲ約束致シ候也

年　月　日　　姓　名　印

名　宛

第二十條　各教會ノ教職（教職ナキ片ハ教會委員）ハ其教會ニ附屬スル家族及ビ丁年者ノ名簿幷ニ「バプテスマ」堅信禮、受聖餐者、信施、婚姻、埋葬、公禱及ヒ説教等ノ帳簿ヲ備ヘ置キ毎年一月中ニ之レヲ監督ニ報告シ且ツ該教會ニ屬スル小學校日曜學校ノ景況ヲモ報告スベシ

第廿一條　本會ノ信徒或ハ「バプテスマ」志願者ハ若シ甲ノ教會ヨリ乙ノ教會ヘ轉スルトキハ甲ノ教會ノ教職及ビ教會委員ヨリ左ノ添書ヲ請ヒ受クベシ

姓　名

右ハ基督ニ在リテ我等ガ愛スル者或ハ我教會ノバプテスマ志願者ニ有之今般貴會ヘ轉會爲致貴會各員御懇情ノ御世話ニ委子殊ニ教職何誰氏ノ御教導ニ托シ候也

年　月　日　　姓　名　印

名　宛

附則　本條ハ旅行等ノ爲一時假リニ他ノ教會ニテ公禱聖餐式ニ與カラントスル者ノ場合ニモ適用スヘキモノナリ

第廿二條　本會ノ教職ハ各其教會信徒ニ聖書祈禱文公會問答、法憲ヲ訓ヘ其他主日、聖公會ノ祝日大齋節ヲ守ルベキ義務ヲ勸ムルヿヲ勉ムベシ

第廿三條　定時公禱ノ節ハ必ズ聖公會禱文ヲ用ユベシ

第六章　監督ノヿ

第廿四條　日本聖公會ノ進歩スルニ至テハ本邦監督ノ教區ヲ定ムベシ

第廿五條　本邦監督ハ該教區ノ教職及ビ信徒ノ撰擧スベキモノトス但シ教職ト信徒ハ其投票ヲ別ニスベシ

第廿六條　本邦監督ハ本會ト連接セル監督三名以上ノ聖成スベキモノトス

第廿七條　滿三十年以下ノ者ハ監督ノ職ニ聖成スベカラズ

附則　該監督ヲ聖成スルニハ先ヅ其撰擧管理等ニ係ハル法規ヲ作リ之レヲ總會ニ差出シテ其認可ヲ受クベシ

第七章　命職ナキ役員ノヿ

第廿八條　本會ノ受聖餐者ハ監督ヨリ左ノ職務ノ認可狀ヲ受クルヿヲ得ベシ

(一)命職サレシ牧師ナキ教會ヲ司牧シ及ヒ會堂ニ於テ祈禱文ヲ讀ミ聖書

ヲ講義スルヿ(二)信徒ヲ教訓スルヿ(三)未信者ニ傳道スルヿ

右ノ認可狀ハ監督ノ意見ニ由テ取消スヿアルベシ

第廿九條　命職ナキ役員ハ赦罪文、祝福文及ヒ公會諸式文ヲ用フルヿヲ得ズ但シ埋葬、看視病、囚徒ノ爲ノ禱文(赦罪祝福兩文ヲ除ク)ハ此限ニアラズ

第三十條　命職ナキ役員ヲ要スル教會ハ其役員ノ俸給全額或ハ其幾分ヲ給與スベキヿヲ約スル左ノ書面ヲ其重立タル會員ヨリ連署シテ監督ニ差出スベシ否ラザレバ監督ハ其役員ヲ認可セザルベシ

我等何誰ニ金何圓ノ俸給ヲ與フルヿヲ約束致シ候也

年　月　日　　姓　名　印

名　宛

第三十一條　命職ナキ役員ハ其任地ノ信徒幷ニ未信徒ノ訪問ニ勉勵シ且其教職ニ職務上ノ報告書ヲ時々差出スベシ但シ其教會ニ教職ナキトキハ監督ニ其報告書ヲ差出スベシ

第三十二條　命職ナキ役員ハ監督ノ定メタル教職ノ指圖又ハ監督ノ指圖ニ從テ勤務スベシ而シテ該役員ハ教職ノ在席スルトキハ其依囑ヲ受クルニ非

第三条ニ挿入

第三条ニ追加

第三条ニ追加

6

ラザレバ祈禱文ヲ讀ムベカラズ但シ監督直轄ノ教會ノ爲メニ監督ハ「サクラメント」ヲ行フ教職及ヒ其度數ヲ定ムルモノトス

第三十三條　受聖餐者タル婦女ハ監督ヨリ認可ヲ得テ信徒未信徒ナル婦女ヲ訪問シ基督教ヲ教ル爲ニ私宅或ハ聖成セザル家屋ニ人ヲ集メ且ツ病者ヲ看護スルヿヲ得ベシ

右認可狀ハ監督ノ意見ニ依テ取消スヿアルベシ

右婦女役員ハ其任地ノ教職ノ管理ニ從テ勤務スベシ

7

第七條　本會ノ受聖餐者ニテ第一條ノ認可狀ヲ得ント欲スル者ハ左ノ資格ヲ要ス

一　受洗後滿二年ヲ經過セシモノ

一　所屬教會教師其他委員三分ノ二或ハ日本聖公會受餐者六名ノ保證アルモノ

三　聖書大意、祈禱文大意、信經說明、教會史及教會政治大意、基督教證據論大意等ノ試驗ニ及第シタルモノ

但監督ハ其試驗ヲ省略スルヲ得ベシ

第八章　懲戒ノヿ

1

第三十四條　教職ハ罪過ヲ行フ片監督ノ審判ヲ受クベシ但シ其審問ハ會長議會ノ爲スベキモノトス

第三十五條　受聖餐者五名以上(其中二名ハ會長)ニアラザレバ教職ヲ常置委員ヘ出訴スルヲ得ズ

第三十六條　若シ常置委員ノ多數ニ於テ告訴ノ理由アリト認ムル片ハ常置委員ハ該教職ヲ監督ヘ告訴シ監督ハ其審判ヲ開クベシ但シ審判ノ手續ハ別ニ之レヲ設ク

第三十七條　教職ヲ告訴シ及ビ審判スベキ罪過ハ左ノ如シ

(一)罪惡幷ニ不道德ノ所業(二)日本聖公會ノ教理ニ反對スル所ノ教理ヲ保守シ公然或ハ私カニ之レヲ教ルコト(三)本會ノ法憲法規ヲ犯シ監督ノ譴責ヲ受クレ𪜈尙ホ悔悟セザルヿ(四)命職ノ時爲セル誓約ヲ破ル所ノ所爲有罪ト判定セラルヽ者ハ諫誡停職或ハ黜職等ノ處分ヲ受クベシ但シ處分ノ法規ハ別ニ之レヲ設ク

第三十八條　本會ノ教職若シ其職ヲ辭スル者アリテ監督ニ辭表ヲ出シタル片ハ監督ハ暫ク時日ヲ待テ會長二名以上ノ前ニ於テ其願ヒニ依テ本會ノ聖職ヲ免ズルヿヲ告示シテ之レヲ記錄スベシ

第三十九條　本會ノ信徒罪惡ヲ行ヒ或ハ基督ノ道ヲ拒絶シテ其兄弟ヲ衒陷スル片ハ會長之レヲ聖餐式ヨリ退クベシ而シテ會長ハ亦公然本人ニ退會ヲ命ズル丁必要ナルヤ否ヤノ意見ヲ添ヘテ之レヲ監督ニ報告ベスシ監督ハ自己ノ意見ニ從テ之レヲ處分スベシ但シ公然之レニ退會ヲ命ズルノ場合ニ於テハ監督ハ先ツ本人ノ望ニ任セテ口述若クハ書面ヲ以テ自カラ辯護スルノ時機ヲ之レニ與フベシ

右ハ死ニ臨ンデ悔悟スル者ニ聖餐式ヲ施スヿヲ禁スルモノト見做スベカラズ

退會ヲ命ジ及ビ復會ヲ許可スル式ハ監督之レヲ作リテ法規ノ附錄トスベシ

第九章　常置委員ノヿ

第四十條　毎定期總會ニ於テ任ジタル十名ノ委員（教職信徒各〻同數）ヲ以テ組織セル常置委員ヲ設ク其中二名ノ教職ハ監督ノ任ズル所（監督二名而已ノ間）ニシテ其餘三名ノ教職五名ノ信徒ハ總會ノ撰ブ所トス常置委員ハ法規ニ載セタル諸事ヲ辨理シ商議委員トシテ監督ヲ補佐ス而シテ監督不在ノ片ハ其權限内ニ於テ公會ノ主權者ナリトス常置委員ハ可成内外

1 ×オ二編で修正の説が出なが法規案ではされた。（常置委員に関する細則は其ハ）

2 ×オ二編で「諸教会ヨリ」の「ヨリ」を削り本文六字を挿入

3

4

人各〻同數ヲ以テ組織スベシ

第十章　地方會ノヿ

第四十一條　地方會ハ該地方ニ屬スル諸教會丁年者ノ毎年撰舉セル代議員ヲ以テ組織スルモノトス該會ハ少クモ毎年召集スベシ

附則第一　東京大阪熊本函館ヲ以テ地方會ノ中央トス

附則第二　地方會ノ代議員ハ善良ノ名聲アル受聖餐者タルベシ

第四十二條　諸宣教師及ヒ牧師幷ニ教會ヲ司牧スル認可役員ハ該會ニ職掌上ノ議員タルベシ

第四十三條　受聖餐者二十名以上ノ教會ハ代議員一名四十名以上ハ二名ヲ該會ニ出スヿヲ得ベシ

附則　議會ヘ代議員一名ヲ出ス資格ナキ教會ハ同一ノ事情アル一個或ハ數個ノ教會ト連合シテ代議員一名ヲ出スヿヲ得ベシ或ハ又斯ル教會ノ孤立スルモノハ議會ノ承諾ヲ經テ可否決ノ數ニ加ハル目的ヲ以テ一大教會ト暫ク協同スルヲ得ベシ

第四十四條　監督臨席スル片ハ議長タルベシ其臨席セザル片ハ議會ニテ會長ノ中ヨリ議長ヲ撰舉スベシ

議會ハ書記會計各〻二名ヲ撰擧スベシ

第四十五條　教職ト信徒ハ其可否ノ數ヲ共ニスベシト雖モ會長二名或ハ信徒二名ノ求メニ因テ之レヲ別ニスルヿヲ得ベシ

第四十六條　地方會ノ職務ハ左ノ如シ

(一)該地方ニ在ル聖公會ノ平安ニ關スル諸事ヲ議スルヿ

(二)總會ノ教職代議員ヲ撰擧スルヿ

(三)總會ノ信徒代議員ヲ撰擧スルヿ

附則第一　右代議員ハ該地方部內各教會受聖餐者ノ撰擧シタル候補者中ヨリ撰擧スルモノトス其數ハ教職ト同數ナルベシ

但シ教職ハ撰擧スルヲ得ス

附則第二　被撰者ハ善良ノ名聲アル受聖餐者ニ限ル

(三)撰擧委員ヲ撰擧スルヿ

附則　撰擧委員ハ會長及ビ信徒各二名ヲ以テ組織スルモノトス

(四)法規第十二章ニ載セタル地方部傳道委員ヲ撰擧スルヿ

第十一章　教會委員ノヿ

第四十七條　教會委員ハ該教會ノ牧師(或ハ之レヲ司牧スル認可役員)及ビ

三名以上五名以下ノ男受聖餐者ヲ以テ組織スルモノトス而シテ該委員ハ毎年一月第二週日間ニ受聖餐者ノ改撰スベキモノトス

附則第一　教會委員ハ少クモ毎月一次ノ委員會ヲ開クベシ

附則第二　教會ヲ司牧セザル認可役員ハ教會委員トナルヲ得ズ

第四十八條　牧師或ハ認可役員ハ職掌上ノ議長トナリ可否決ノ數ニ加ハルヿヲ得其欠席スル片ハ委員會ニテ議長ヲ撰ブベシ

第四十九條　教會委員ノ職務ハ左ノ如シ

(一)教會ノ庶務ヲ取扱フヿ(二)集金及ビ會計(三)建物ノ管理及ビ修繕(四)教職缺位スル片ハ受聖餐者ト商議ノ上撰擧委員ト共ニ牧師ヲ指名スルヿ(五)認可役員ノ司牧スル教會ニ於テ教務上教職ヲ要スル片ハ該教會委員ヨリ監督ノ認可ヲ有スル教職ニ倚賴スベシ

第十二章　傳道會社ノヿ

第五十條　本會社ヲ日本聖公會傳道會社ト稱ス

第五十一條　本會社ハ之ニ出金スル所ノ聖公會々員ヲ以テ組織スル者トス

第五十二條　本會社ノ本部ハ東京ニ置キ其委員ハ總會毎ニ撰ビタル社員六名ト監督ヲ以テ組織スルモノトス但シ外國ノ扶助ヲ受クル間內外人各、

メホニ該ヒ挿入

五名ヲ三名トス

三名ヲ撰ブベシ

但該委員ハ在東京人ニ限ルモノトス

第五十三條　本部議長ハ臨席セル先任ノ監督タルベシ而シテ監督ノ臨席セザルトキハ本部會ニテ議長ヲ撰ブベシ

本部ハ毎年會計及ビ書記各〻二名ヲ撰ブベシ但シ會計書記共ニ内外人各〻一名タルベシ

第五十四條　本部ノ職務ハ左ノ如シ

(一)諸教會及ビ其他ヨリ本會社ニ集納セル金ヲ預リ置ク(二)地方傳道委員ヨリ扶助金給與ノ求メヲ受ケ之レニ給與スル(三)地方傳道委員ノ爲メニ概則ヲ立ツル(四)地方傳道ヲ視察スル(五)毎年計算書ヲ作リテ之レヲ公ニシ且ツ傳道上ノ摸樣ヲ總會ニ報告スル

第五十五條　地方傳道委員ハ地方會ノ撰ブモノトス但シ外國ノ扶助ヲ受クル間ハ該委員ハ内外人各〻同數タルベシ

第五十六條　地方傳道委員ハ其議長幷ニ會計二名書記二名ヲ撰ブベシ但シ會計書記共ニ内外人各〻一名タルベシ

第五十七條　地方傳道委員ノ職務ハ左ノ如シ

メホニ該ヒ會挿入

一九五〇年二月十一日付ニ字句挿入

(一)本部ノ給與金ヲ受ケ之レヲ支拂フ(二)傳道役員ヲ撰ビ且ツ之レヲ管理スル(三)本部書記ヘ四季ノ報告ヲナス(四)社員ノ寄附金ヲ集ムル

第五十八條　地方傳道委員ハ監督ノ認可ヲ受ケザル役員ヲ任用スルヲ得ズ

第十三章　聖成セル建物ノ

第五十九條　會堂ヲ聖成スルニ監督ハ先ヅ其建物ニ負債ナキヿト永ク本會ノ所有ニ屬スベキヿトヲ認メタル上ニテ之レヲ聖成スベシ而シテ聖成シタル建物ハ監督常置委員ト商議セシ上ニテ承諾スルニアラザレバ或ハ賣拂ヒ或ハ讓渡スルヿヲ得ズ

第六十條　聖成セル建物ハ本會ノ祈禱幷ニ全能ノ神ノ禮拜ノ外他ノ事ニ用ユベカラズ但シ會堂ニ附設セル寮室ハ此限ニアラズ

第十四章　結婚幷ニ離縁ノヿ（延期）

第十五章　定數ノヿ

第六十條　總會、常置委員會議、其他總テ幾許ノ人員ヲ以テ組織セルモノヽ議會ハ其委員ニ漏レナク通知シ總員ノ過半ヲ以テ定數トス而シテ右定數ノ過半ハ議決權ヲ有スルモノトス

法規畢

○東京築地立教學校

○本校の目的とする所は善良なる公民を造出し業を卒て社會に出で實業に從事するも自營自立の途に於て支障なき程の知識を與へ或は卒業の後尚專門の學藝を研究するの希望と餘力とを有する者をして自修に支障なき程の學力を養成せしむるにあり

○學科を分て本科五年、少年科二年とす」少年科は當學期より新設したる者にして其高等小學の上級若くは尋常中學の下級に比して特色ある所は漢學と英語授業時間の多きとなり此れ本校の頗る注意したる所なり」本科は高等普通學を敎授す漸次歩を進めて米國のカレ1ジ風となさんことを期す

○校内に文學會、青年會、端艇會、演武場、あり少年生も演武場に出席し体育を怠らざらしむ」何人も寄宿するを得少年生の爲には特別の寄宿舍を設て特別の管理をなす校紀嚴肅にして生徒は一般に勤勉活潑の風あり

○敎職及び認可役員の子弟は授業料を要せゞ

東京々橋區築地新榮町七丁目

私立立教學校

○大阪婦人傳道學校

本校ハ英國傳道會社シ、エム、エス、ニ屬シ熱心ナル日本女信徒ヲ敎育シ婦人傳道者ヲ養成スルヲ以テ目的トス入學志願ノ姉妹ハ願書ヲ以テ校長迄申込アルベシ諸テ問合セ並ニ規則書望ミノ方ハ同ジク校長ニ通知アレ

大阪居留地十七番

英國傳道會社婦人傳道學校

○函館靖和女學校廣告

本校ハ徒ニ高遠ニ馳スルノ敎育ヲナサズ又文學技藝ノミニ偏セズ務メテ實用ニ適切ナル個人的齊家ニ相應スル敎育ノ方針ヲ取ルモノナリ卽チ浮誇輕躁ニ流レズ卑近卑屈ニ陷ラズ貞淑敏慧能ク將來善母タルノ任ニ堪ユベキ品性ヲ養成スルニ在リ是ニ於テ乎精神修練ノ必要最急ナルヲ信ズ乃チ基督敎ニ採リ專ラ倫理ニ由テ女德ヲ涵養スルヿヲ期セリ擔當敎師ハ外國人二名本邦人四名ニシテ學科ヲ三級ニ分ツ卽チ幼年科三ヶ年豫科二ヶ年本科三ヶ年凡八年ニシテ全科ヲ卒業スルモノナリ之ヲ要スルニ女子敎育ニ必要ナル學科技藝ハ網羅シテ遺ス所ナシ而シテ敎授ハ一意懇切ヲ旨トス授業料ハ一ヶ月金五拾錢寄宿賄料ハ一ヶ月金三圓已上トス以上ハ唯其梗概ヲ示スノミ詳細ノ規則御入用ノ方ハ御申越次第速ニ進呈スベシ今ヤ各科ニ欠員アリ入學ヲ望マル、人ハ至急御申込アルベシ

北海道函館元町五十三番地

私立靖和女學校

○奈良英和學校

本校ハ青年男女ノ爲ニ設立シタル私立學校ニシテ敎師ハ内外人合セテ七名アリ位地ハ公園ニ接近セル高所ニアリテ空氣ノ流暢宜ク且清潔ニシテ最モ人体ノ健康ヲ保ツニ適セリ青年諸氏一タビ本校ニ入ラバ忽チ道德的社會的ノ感化ハ勿論身体上ニ於テモ亦大ニ感化セラル、所アルヲ覺ユベシ

奈良縣奈良町大字登大路

私立奈良英和學校

○神戸乾行義塾

本校ハ英漢數ノ三學課ヲ教授ス然レ𪜈其目的ハ特ニ後進者ヲシテ純粹ノ英語ヲ修メシムルニアリ又入學ハ別ニ期ヲ設ケズ何時タリトモ之ヲ許ス詳細ノ事ハ規則書ニ在リ望ミノ者ハ貳錢郵券ヲ投セラルレバ直ニ送呈セン本校教員ハ左ノ如シ

英文課
- 英國人 エチ、ムアー
- 仝 エチ、ヒウズ
- 同 夫人
- 高山時藏
- 梅木忠朴

英文課 數學課
- 德久知至

英文課 漢文課
- 勝田觀太郎
- 村山和介

漢文課 數學課
- 助教 金糸國太郎

神戸港中山手通三丁目外五號

乾行義塾

○女學生募集

◉目的　德育の基礎に基督教（聖公會）を以てし內外の學藝を參酌し以て我國女子に切實有用なる教育の方針を採り專ら賢母良妻たるの女子を養成するにあり

◉科目　修身和漢英文學數學作文習字家政物理生理地理歷史動植物毛筆畫裁縫茶活花等音樂は望の者に限り教授す

內外の教員右各科を懇切に教授す

◉募集　這般本科豫科尋常小學科共若干名入學を許す通學又は寄宿志願者は至急申込あれ試驗の上適當の級に編入すべし規則望の方へは直に呈す

大阪川口英十二番

プール女學校

○東京麻布香蘭女學校

本校ハ一千八百八十八年ノ設立ニ係リ其目的ハ中等以上ノ女子ニ基督教ヲ基礎トシテ正當ナル普通科ヲ授クルニ在リ

本校ハ芝區聖アンデレ教會ニ接近シ地勢高燥ニシテ健康ニ益アル所ナリ殊ニ公園廣豁東京灣ヲ一望ノ下ニ置キ風色最モ佳ナリ

生徒ハ定員ニ充ル迄寄宿ヲ許ス寄宿者ハ東京在住ノ保証人ヲ要ス但シ基督教信者タル女子ハ特ニ東京市外ニ在ル保証人ヲ立ルヲ許スコアルベシ

本校ハ英語ヲ學ブニ特別ノ便利アル耳ナラズ漢文、和文、理科、數學、歷史、地理ノ如キ國語ヲ以テ授クル科目ハ別ニ熟練ノ教師ヲ聘シテ之ヲ授ケ決シテ等閑ニ付スルコナシ而シテ裁縫、唱歌及圖畫ノ如キモ科目中ニ加ヘ又別ニ音樂「ピヤノ」及「ハーモニアム」ヲモ授ク

明治廿三年以來科目ニ尋常小學ノ科程（教育令ヲ遵奉スルモノ）ヲ加ヘタレバ本校ハ尋常高等小學及尋常高等中學ノ科程ヲ悉ク教ブルモノトス

學費

束脩	中學生	二圓
	小學生	一圓
月謝	中學生	八十錢
	高等小學生	六十錢
	尋常小學生	五十錢
寄宿料	舍費	三圓
	食料	

右ノ外尙詳細ノコトヲ聞カント望マル人ハ校長ブロック嬢ニ尋問アレハ直ニ御答スヘク規則書ハ御望ニ應シ早速郵送致スヘシ

本校內ニハ別ニ傳道ニ從事セントスル婦女ヲ養成スルノ設ケアリ

東京麻布區永坂町一番地
聖ヒルダ傳道會附屬

香蘭女學校

○神戸松蔭女學校

本校ハ女子教育ノ現況ニ見ル所アリテ設立シ舊時ノ家庭教育ト現今ノ學校教育トヲ折衷斟酌シテ各其粹ヲ拔キ一種ノ新法ヲ案出シ女子ノ教育ニ經驗アル内外ノ教師數名ヲ聘シテ其任ニ當ラシメ以テ精神的ニ傾カズ藝術的ニ流レザル良教育ヲ施シ世ノ婦女子タル本分ヲ育成スルヲ期ス

學科ハ豫科二ケ年本科三ケ年高等科二ケ年ナリ小學校尋常科卒業ノモノハ豫科第一年級ヘ同高等科ヲ卒リタル者ハ本科第一年級ヘ何レモ無試驗ニテ入學ヲ許ス其他ノ者ハ學力ヲ試ミタル上相當ノ級ヘ編入スベシ學費ハ一ケ月凡ソ金四圓ニ過キズ詳細ハ本校規則ニ明ナリ規則書望ノ向ハ郵券二錢ヲ投セラルレバ遞送スベシ

神戸市中山手通六丁目三番地

松蔭女學校

○神戸看病婦學校

今般聖公會所屬トシテ設立シタル本校ハ英領金田傳道會社ヨリ派遣サレタル看病師シヤーロック女史專ラ擔當シ他ニ數名ノ日本醫師之ヲ補助シ主ノ博愛主義ヲ基礎トシテ教授スルノミナラズ本地縣立神戸病院正副院長ヲ始メ醫員諸氏大ニ此舉ヲ贊シ本校ノ發達ニ就キ盡力センヿヲ約サレタルガ故ニ本校ハ該病院ト連絡ヲ通ジ學術實地兼備ノ善良ナル看病婦ヲ養成セントスルモノナリ若シ此學ニ志アル向ハ速ク來リテ學バレンヿヲ望ム規則書入用ノ方ハ郵券二錢ヲ投ゼラルレバ直ニ遞送セン

但毎年九月ヲ以テ入學ノ期トナセドモ當分臨時ノ入學ヲ許ス

神戸市下山手通七丁目

神戸看病婦學校

○大阪桃山高等英學校

本校ハ實業ニ就カント欲スル者若クハ更ニ專門學ヲ脩メント欲スル者ニ須要ノ教育ヲ施ス處ニシテ脩業年限ハ豫科二年本科四年生徒募集ハ九月初旬ノ定期ナレモ現級ニ相當ノ學力アル者ハ臨時入校ヲ許ス束脩金壹圓月謝本科金壹圓豫科金七十錢食料金二圓六十錢校費金二十五錢校舍建築土地風景殊ニ教員器具僉ナ宜ニ適フ願クハ有爲ノ諸君續々笈ヲ負フテ遊學アランヿヲ

公告

校主　寺澤久吉

○照暗女學校

大阪川口六番

課程　本科四年　高等科二年

教員ラベル嬢英語　マキム夫人音樂

澤村繁太郎氏理化學及譯讀　千石温知氏和漢學及譯讀

榎本常氏和文家政裁縫　栗山丈造氏算數學

楠谷經氏英語　外ニ内外教職三名倫理科ノ教授ヲ擔任ス

束脩壹圓　月謝五十錢　食費一ケ月二圓三十錢　舍費一ケ月廿五錢

尋常小學卒業ノ資格アルモノハ本科一年級ニ入ルヿヲ得又本科ノ下ニ豫科ヲ設ケ本科ニ入ラントスル女生ニ豫備ヲ爲サシム時々入學ヲ許ス有志ノ仁ハ申込アルベシ

○名古屋養老院

本院ハ客年諸兄姉ノ義捐金ヲ以テ設立致シ孤獨ノ老人ヲ救養致シ候今後本院ニ義捐金贈與ノ方ハ名古屋東片端四十三番戸ゼ、シー、ロビンソン氏ヘ向ゲ御送附被下度候

名古屋市横代官町二番戸

名古屋養老院

○聖餐用盃類其他金銀細工一式

右精々勉强仕候ニ付御用被仰付度奉願候

長崎市船大工町三十九番戸

糸岐平藏

大阪市東區平野町四丁目廿三番邸

金銀細工小間物商

金匠堂　山口金助

○教會用器具製造所
椅子テーブル　西洋小道具

私儀內外諸氏ノ愛顧ヲ蒙リ多年本業相營ミ居リ候處漸々微名ヲ傳ヘラレ彼ノ教會堂用器ノ如キハ京都五條教會、大阪白髮橋教會、神戸聖ミカエル教會、及ビ全地仲町講義所、越前福井教會、伊豫松山教會、淡路洲本教會、肥後熊本教會、備後福山教會、其他神戸留居地外國教會等遠近各地所用ノ品々一切製造致シ候弊所ニ於テ製造スル器具ハ汎ク海外ニ行ハル、正式ニ倣ヒ且實地所用ノ便否ヲ圖リ撰成堅牢ニシテ且精巧ヲ極メ代價ハ成ル可ク低廉ヲ勤メ特ニ遠地ニ遞送スルニハ荷造等ニ能々注意シ曾テ貴囑ノ芳意ニ背カザルヿヲ謹デ勉强仕候間何卒各地ニ於テ御需用ニ臨マルヽ片ハ必ラズ弊所ニ御注文アランヿヲ望ム

神戸市北長狹通四丁目一番地
溝淵和三郎

○築建受負
教會堂建築幷附屬品一切
並家屋建築

私儀從來建築受負業相營居候處大方ノ愛顧ヲ蒙リ難有奉存候是ヨリ一層精勵勉强仕正直ヲ旨トシ堅牢ト精巧ニ注意シ且低廉ニシテ期日ヲ誤ラザル樣盡力仕候ニ付遠近ニ係ラス陸續御用被仰付度奉願候敬白

大阪西區阿波座四番町百三十九番地
聖救主教會信徒　鹽谷源吉

○備後福山　內外旅客御宿泊所
よし野亭

○出版書籍
ジョン、マキム著
大生閑太郎譯
○余が聖公會員たるの理由
一冊　代三十錢

此原書ハ米國ニ於テ出版シタルニ大ニ江湖ノ賞贊ヲ得再版スルヿ十八回ニ及ビ冊數二萬部ヲ賣捌キタル良書

ナリ
ジョン、マキム著
○聖教問答　一冊
代價　惣クロス表紙六錢紙表紙四錢
ジョン、マキム著
○聖公會古規　一冊　代價　十二錢

大阪川口廿三番地
小野元

東京々橋區銀座二丁目六番地
賣捌所　日本聖公會書類會社

○聖公會讚美歌　一冊　代價十錢
○全譜附　一冊代價　上七十五錢　中五十五錢　下四十錢
○祈禱文中の詩歌　一冊代價貳錢
音節附

監督エドワード、ヒカステス氏序
トマス、ケンヒス氏原著
神戸在留宣教師ヒユ、ゼ、フチス氏校閲
○世範　卷ノ一合冊代價　惣クロス表紙廿錢　紙表紙十五錢　卷ノ四
○全　卷ノ四一冊代價十二錢
（信仰の友評）世範はイミテイション、オフ、クライストの第一卷と第四卷とを譯せるものなり行文虛飾なく極めて眞に而かも明快にして苦澁の跡なし吾人は感謝と喜悅とを以て是を世に推薦するものなり（六合雜誌評略第百四十二）之を英譯に對照するに反譯概ね妥當にして信凰の跡なく又務めて原文の語勢を失はざらんことを試みたるもの〻如く譯文其体を倶へ且語氣明瞭を加へたること著しきを見るなり扨此書は信仰修德の爲に稀有の好書なるは今更に蛇足を加ふるの要なし今や人情益輕薄に流れ信仰亦稍や俗化せられんとするの時に當り默思靜念以て大に養ふの必要の甚だ大なるを感ず（日曜叢誌評略第三十六號）フオス氏の反譯は今第一第四の兩卷も亦將印行成て世に公にせらる吾人は第二第三に出版發行せられんことを望む而して第四卷を先にしたる所以は本書の例言に明なり既刊の分を一讀するに行文冗飾を用ゐずして而も晦澁なるを一讀するに行文冗飾を用ゐずして而も晦澁ならず轉吾人をして殘篇の發刊を熱望せしむ（基督教新聞評略第四百八十號）余輩世範を通讀するに譯文簡明にして原文の語勢を失はざらんことを務めたるもの〻如く譯者の苦心を見るに足れり鼇頭に聖書の引照を記したる如き用意至れりといふべし

大阪土佐堀
福音社

神戸市元町
全

賣捌所

東京々橋區銀座二丁目六番地
日本聖公會書類會社

○教義覽要
全一冊　定價金三十五錢
○本書はアーチデヤコノ、エ、シ、シヨウ氏の著なり公會問答信經までを解釋して順序要領浩然として見るべし蓋し氏が多年諸生を教誨しまた洗禮志願者を教育したる實驗的講義は遂に此編を完成したる所以にして教役者は一日も坐右に欠ぐべからざる良書なり

○聖餐禮釋義
全一冊　定價金二十錢
○本書も亦ショウ氏の講述にかゝる氏曾て聖安得烈教會會員の爲めに次第を追ひ聖餐禮式文を講演せられたれば請ふて一卷の書となしたる也此釋義は專ら公禱文聖餐式文に基き聖書により丁寧に正確に簡にして高尚にまた平易に基督教の奥義を說明す

○堅信禮詳解
全一冊　定價金拾六錢
○本書は會長今井壽道氏の著にして今日歐米神學者中の諸大家の著書を參酌して堅信禮を歷史効力式文註解問答の數部に分けて明晰に周到に解釋したるもの也堅信禮志願者を教育する用書として大に益あるべし

○祈禱の園
全一冊　定價金拾錢
○本書は「祈禱の枝折」に改正增補を加へて改題したるもの也初版二版は幾月ならずして賣盡し今また三版も品切れとなり第四版は近日發刊すべし

○基督教沿革史
二冊合本　定價各拾五錢
○本書は英國神學士カッツ氏の著書を反譯したるものなり基督教會の起原より其組織政治等を記述してアフリカ教會の迫害時代に至る以下續て發行すべし基督教會の成立初代の歷史を知らんと欲するものは宜しく必讀すべし

○聖公會政治要論
全一冊　定價貳拾五錢
○本書は英國サドラー氏の著にして今井壽道氏の反譯にかゝる聖公會政治の如何を知らんとするものには至重の良書也

○教理一夕話
全一冊　定價貳拾錢
○本書は今井壽道氏の講演を山田茂三郎氏が筆記したるものなり文章は平易講述は甚だ周到洗禮より埋葬に至るまで教會の教理を說明して太だ益あり

東京市京橋區銀座二丁目六番地
賣捌所日本聖公會書類會社

日曜叢誌

○本誌は聖徒が一たび傳へられたる信仰の道を闡明し之を世に發揚するを主意とし聖公會の德を建つるを目的とす。初刊以來既に三年を經て紙面の改良善美着々備り進みて望を將來に屬すること多し。本誌の記事は左の諸欄より成り全文假名を附して讀み易からしむ。諸兄姉購讀の勞を惜み玉ふな。若し見本を要せば五厘の郵券拾枚を送られたし

○日曜叢誌は誠忠の論と平和の筆とにて充てり○教訓は內外諸家の說教勸話を載す寒村僻地にありても坐して其說を聽き得べし○寄書は內外諸家の高論卓說を列ねて紙上に花の錦を織りなす○譚筵は宗教小說或は義士節夫の美譚を載す○雜錄は佳話訓言譬喩逸事にして面白し○外報は新しくして珍しきを撰ぶ○教報は全國聖公會の運動事情を知らしむるを務めて益々多を加ふ

○本誌は毎月一回一日に發兌す。一冊定價五錢。一年分前金五拾五錢廣告料は一回一行五錢六行以上四錢五厘十一行以上三錢五厘二回以上之に從て甚だ廉なり且つ本誌の發送數に伴ふて効あり○本誌は聖公會の爲に努て諸教會の時事信仰の美談を報道す故に諸兄姉の務て報知せられんを願ふ但し通信は毎月十五日廣告は廿三日迄とす

東京市京橋區銀座二丁目六番地
發行所　日曜叢誌社